

No.1「ゴールデンウイークが終わるまでに、 新学年の予習をして、授業に臨もう」

Q 1 : いよいよ新学年がやってきます。新学年に備えて行ったほうがよいことは何ですか。

A : (1)「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」のすべてを十分に理解した上で、勇気をもって「チャレンジ」、「実行」することです。

(2)そして、ゴールデンウイークが終わるころまでに、少しずつ「学習習慣」を身に着けて、新学年の授業に臨むこと。



(3)「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」に少しずつでも OK すから、今からチャレンジし、「学習習慣」を身に着け、新学年の授業に臨むことです。

Q 2 : 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」というのは何ですか。

A : (1)「学習習慣」を身に着けることが、トップ校や難関校を含め第1志望校合格や、学校成績大幅アップに直結する。これが開倫塾創業以来、40年間の経験を踏まえて考えたことです。

(2)この大切な12の学習習慣を「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」として取りまとめました。12項目ありますので、1年12か月に割り振ってチャレンジしやすくしました。



(3)今年の3月は春休みまで学校が休校で、部活動もありません。そこで、本日3月2日(月)から「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」の詳細を、<塾長メッセージ>として毎日皆様にお伝えしてきました。

(4)3月17日までにそれらを取りまとめて、加筆・修正し、一冊にとりまとめたのが、この「塾生 HAND BOOK2020」です。

— <執筆者・塾長から一言> —

(1)執筆は、この「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」を取りまとめる責任者である塾長林明夫です。全力を傾注して執筆いたしました。

(2)この<塾長メッセージ>は、これから順次、塾生の皆様に校長先生はじめ先生方を通じてお渡しいたします。開倫塾の H.P.塾長コーナーにも掲載してあります。

(3)是非、自分の力で熟読の上、自分の力で理解し、少しずつで OK ですから、すべての項目にチャレンジしてください。

(4)保護者の皆様も、必ず、お読みください。御祖父母の皆様を含め、御家族の皆様全員で御活用ください。生涯にわたって必ずお役に立つと確信いたします。読み終えたものは、保存して頂き、繰り返しお読みください。

Q 3 : 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」の第1番目は何ですか。

A : 「次学年の予習をして、新学年に臨もう」です。

(1)なぜなら、新学年の各教科の成績は、新学年の授業開始までにどれだけ予習をしたかで決まる」からです。

(2)ですから、開倫塾の新学年のテキストや、学校の新学年の教科書は、手にした瞬間から予習を始めることをおすすめします。

(3)春休みが終わるまでに、又は、ゴールデンウィークが終わるまでに、何教科かのテキスト・教科書を1冊まるごと予習し終えることを、おすすめいたします。



Q 4 : そこまでやる人がいるのですか。

A : (1)①「学年が始まる前に、又は、ゴールデンウィークが終わるまでに、その学年の教科書を勉強し終えることが、新学年の成績を決める」を知っている人は行います。

②開倫塾では、40年前の創業時から、この「予習の大切さ」を塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、すべての先生方・社員の皆様にお伝え続けてきました。

③私が担当する毎週土曜日、午前 9:00 ~ 9:20 に放送中の、CRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間 林明夫の歩きながら考える」でも、33年間お伝え続けてきました。



(2)やる、やらないは自由です。実行すれば、途方もないほど「効果的な学習方法」です。是非、チャレンジすることをおすすめします。

(3)①医学部に進学して医師になった方や、法学部に進学して弁護士や検事、裁判官になった方、偏差値 65 ~ 70 以上のトップ校・難関校に進学なさった方など、多くの塾生が参考にしています。

②逆にいえば、「偏差値65~70以上のトップ校・難関校に入学したければ、1年分の予習をしてから、受験学年を迎える」ことは「常識」といえます。

③小学校6年生になってから小学校6年生の勉強をしたり、中学校3年生になってから中学校3年生の勉強をしたり、高校3年生になってから高校3年生の勉強をするよりは、受験学年になる前の3月中に、又は、ゴールデンウィークが終わるまでに、1教科でも多く、受験学年の勉強を一通りし終えておいたほうが、圧倒的に有利といえます。

(4)①少し先の話になりますが、大学や短期大学、専門学校、専修学校、大学院などで学ぶ場合に、指定された教科書や資料、参考文献、ホームページなどを第1回目の授業の前までに1回は読み終える。その内容を大体理解してから授業に臨むことは、絶大な効果があります。

②社会に出てから、新しいことを学ぶ場合も同じです。

③予め指定されたテキストや資料は、一通り勉強してから第1回目の勉強会に臨む。この予習の基本方法は、すべての分野を勉強する上で極めて役立ちます。

Q5：それではお聞きします。「予習」は何のためにするのですか。

A：(1)素晴らしい質問です。さすがは、開倫塾の塾生です。ここから先は、1年分の予習だけではなく、「毎回の授業前の予習の仕方」も含めて説明しますので、よく理解してくださいね。

(2)「予習」とは、「よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むために行うもの」です。

(3)開倫塾や学校のテキスト・教科書を「予習」していると、よくわからないことがたくさん出てくると思います。

(4)「予習」をしていて、「辞書」で調べたり、「参考書」や「インターネット」で調べたり、友達や家の人に聞いたりしてもよくわからないことがあったら、「印」をつけておきましょう。

(5)「予習」を十分に行い、「よくわからないことをはっきりさせてから、開倫塾や学校の先生の授業に臨むこと」をおすすめします。「予習」はそのために行うものです。

Q6：エッ、予習をしていてよくわからないことがあったら、辞書や参考書、インターネットなどで調べるのですか。友達や家の人に聞いたりもしたほうがよいのですか。

A：その通りです。

(1)「予習」をしていて意味のよくわからない「語句」があったら、「辞書」や「百科事典」、「用語集」、「参考書」、「インターネット」等を用いて調べることは、「予習」の「常識」です。

(3)友達や家の人など、身近な人の中に、その教科や分野が得意な人がいたら、質問させていただくこともよいと思います。

(4)「よくわからないことをはっきりさせて授業に臨む」とは、そういうことです。

(5)「授業」が終わってもよくわからなければ、先生にお許しをいただき、授業中、又は、授業後、質問させていただきます。

(6)学んだ結果は、「ノート」にしっかりと「メモ」することもお忘れなく。大変貴重な「宝物」となります。



Q7 : では、「予習」はどのようにやったらよいのでしょうか。教科ごとに教えてください。

- A : (1)国語と社会と理科の「第1回目の予習」は、「物語」を読むように、1ページから、できるだけゆっくりと読み進めることをおすすめします。
- (2)「そうか、この学年ではこのようなことを学習するのか」という大枠（アウトライン）をまずつかむのが、「第1回目の予習」です。
- (3)「英語」は、教科書本文をスラスラよく読めるようになるまで声を出して読む。できれば、英語だけでなく、国語と社会と理科の3教科も、小さな声を出しながらゆっくりと全文を「音読」することを、「第1回目の予習」としておすすめします。数学の教科書も、小さな声を出して読むことをおすすめします。



Q8 : 国語と社会と理科の、毎回の授業前の予習はどうしたらよいのですか。

- A : (1)教科ごとにノートを1冊ずつ用意して、1章ずつ項目や重要項目、大切な語句を書き写すこと。
- (2)読んでいて意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や各教科の用語集、参考書やインターネットで調べること。
- (3)調べたことは、必ず、「ノートに書き写す」ことです。



〈図書館を使いこなすことを「学習習慣」にしよう〉

- (1)「学校図書館」や「公共図書館」が使用できるようになったら、「予習」は図書館ですることをおすすめします。
- (2)図書館での予習が一番効果的であることを、是非、御記憶ください。
- (3)ですから、図書館には毎日行き、図書館を使いこなすことも、身に着けるべき大切な「学習習慣」です。

Q9 : 「国語」の予習について、もう少し詳しく説明してください。

- A : 国語は、「国語辞典」「漢字辞典(漢和辞典)」「古語辞典」などの「辞書」は「武士の刀(かたな)」と同じで、国語を勉強するときの「武器」、最大の道具です。
- (1)「国語」の予習で第1番目にしたほうがよいことは、テキスト・教科書の「本文」を「声を出してゆっくりと読むこと」、つまり、「音読」です。
- ①意味がよくわかって、わからなくても、とにかく国語のテキスト・教科書の本文をゆっくりと「音読」することをおすすめします。
- ②音読していて、「読み方」がよくわからない語句があったら、「印」をつけておくこと。あとで「漢字辞典」で読み方を調べ、ふりがな(振り仮名)を「ノート」に書き写しておくことです。
- ③「古文」や「漢文」で読み方や意味がわからないときには、「古語辞典」や「漢字辞典」で調べること。

(2) 「音読練習」をしよう

① 「スラスラとよく読めるようになるまで」、つかえないでよく読めるようになるまで「音読」を繰り返してください。この練習を「音読練習」といいます。

② 「音読練習」の第 1 の目標は、「スラスラといえるようになる」ことです。

③ 「大切と思われる文章」は「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるまで音読練習を繰り返す」ことです。「何も見ないでいえるようにまで」なることを「暗唱(あんしょう)」といいます。この「暗唱」が「音読練習」の第 2 目標です



(3) 「国語の予習」として第 2 番目にしたほうがよいことは、よく書けなそうな語句を、「書き順も含め正確に書けるまで練習」する「書き取り練習」です。

① 国語のテキスト・教科書を読んでいて、又、予習として一度解いた問題の中で、書けなそうな語句があったら、人名や地名など固有名詞も含めて、**すべて正確に書けるまで「書き取り練習」**をいたしましょう。

② 何も見ないでスラスラといえるようになった文章、つまり「暗唱(あんしょう)」できた文章を、「何も見ないで書き順も含め正確に書けるまでにする」ことを「暗記」といいます。

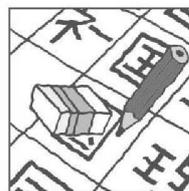
③ まずは「暗唱」できるまで「音読練習」をし、次に「書き取り練習」をしながら、「暗記」できるまでにすることです。過去問も含め、予習として一度解いた問題についてもこれを行えば、必ず、学校の定期試験、模擬試験、入学試験や 3 大検定、国家試験でよい点数が取れます。又、社会に出てからも忘れることはありません。一生役に立ちます。

〈中学高学年・高校・大学生、社会人も「音読練習」と「書き取り練習」を〉

(1) 小学生や中学 1・2 年生は「音読練習」や「書き取り練習」をよくしますが、中学 3 年生や高校生、大学生、専門学校生、専修学校生、大学院生、社会人は「書き取り練習」を全くしない人が多いのが現状です。

(2) これでは、いつまでたってもうろ覚えのまま、難しい語句は身に着きません。中学高学年生と高校生は意識的に「書き取り練習」をするように心掛けてください。

(3) 「ことばは力」「ことばの数は力」「語彙(ごい)数は力」です。大学生、大学院生、社会人になっても「書き取り練習」をするように心掛けて、「書き順」も含め正確に身に着けてください。



Q10: この「国語」の「音読練習」「書き取り練習」をしながらの予習の仕方は、「社会」「理科」「英語」の予習にもそっくり当てはまるではありませんか。

A : (1) その通りです。さすが、開倫塾の塾生ですね。ただし、「社会」や「理科」は、「国語辞典」「漢字辞典」だけでは不十分です。「予習」していて意味のよくわからない「語句」が出てきたときに調べるのに役立つのは、「社会」や「理科」の「分野別用語集」「学年別・分野別参考書」「百科事典」「インターネット」です。
(2) これらは、家庭にない場合が多いのですが、図書館ならどこにでもあります。学校図書館や公共図書館が使用できるようになったら大いに活用いたしましょう。
(3) 「国語」はもちろんのこと、「社会」「理科」「英語」も、「音読練習」「書き取り練習」を「予習」の段階でも繰り返し行い、学校の授業が始まるまでにすべて身に付けてしまいましょう。「身に付けること」を「定着」といいます。すべて「定着」させてしまいましょう。



Q11: 「英語」について、もう少し詳しく予習の仕方を説明してください。

A : (1) 開倫塾の英語の「テキスト」、学校の英語の「教科書」をできるだけ早め、早めに徹底的に「予習」してください。できれば、1冊全部、早めに「予習」し終わってください。「予習」するのに遠慮は一切不要です。
(2) 開倫塾のテキストは問題が多いですが、予習として一度解いた問題は、問題文や設問、選択肢も含め「音読練習」「書き取り練習」を必ず行ってください。
① 学校の教科書の本文や開倫塾のテキストの問題文の本文は、スラスラと読めるようになるまで「音読練習」をすること。
② 「音読練習」をしていて、意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、「印」をつけておき、あとで「英和辞典」「和英辞典」「英英辞典」を用いて徹底的に調べる。辞書で調べたことは必ず「ノート」に書き写し、繰り返し読み込んで正確に覚えることです。
③ 英語の綴り(つづり、スペリング)の「読み方」がわからない場合には、辞書の「**発音記号**」を書き写すこと。「発音記号」の「読み方」がわからないときには、辞書の最初のほうに出ている「発音記号の読み方」のコーナーをよく読むこと。それでも「発音記号の読み方」がわからなければ、開倫塾の先生に質問してください。4月に学校が始まったら、学校の先生にも質問してくださいね。

〈「発音記号」と「文法用語」も身に着けよう〉

- (1) 高校を卒業するまでに「発音記号」に慣れ親しみ、「発音記号」の読み方を身に付けてください。大学に進学してから、社会に出てから、「英語以外の外国語」を学ぶときに役立ちます。
(2) 英語の「文法用語」も身に付けてください。「英語以外の外国語」を学ぶときにも「文法用語」が出てきますので、そのときに役立ちます。
(3) 「英語の学習を通して、語学の学習の仕方も身に着けること」を心掛けてくださいね。



(3)①英語の「音読練習」と「書き取り練習」の第1目標は、「スラスラといえるようにまでなること」です。

②第2目標は、「何も見ないでいえるようになること」つまり「暗唱(あんしょう)」です。

③第3目標は、「一度学んだ英語の文章が何も見ないで書けるまでになること」つまり「暗記(あんき)」です。

*「予習」の段階でここまで済ませてから、英語の授業に出ることを目指しましょう。



Q12:「数学」の予習はどのように行えばよいのですか。

A : (1)①数学の予習は、1 ページずつ「例題」「基本問題」「練習問題」「応用問題」をノートに解いていく以外ありません。

②その際に大切なことは、答えだけでなく、必ず問題文も書き写し、その下に解答を書くことです。答えだけでなく、解答にいたる計算などもすべて書くことがポイントです。

③ノートの使い方は自由ですが、普通は左側のページを予習用に使い、右側のページはすべて空けておくことが多いようです。

(2)①問題を解いていてよくわからなければ、解答にいたる計算などを書くスペースを空けておき、次の問題に挑戦することです。

②解き方や考え方がわからない問題は、学年別・分野別の「参考書」や「算数辞典」、「数学辞典」を参考に「解き方」を考えましょう。

(3)①数学の「参考書」や「数学辞典」などには、よく探せば、似たような問題、「類似(るいじ)問題」が必ずあります。

②なぜそのように解くのか、よく考えながら、類似問題の問題文と解き方を「ノート」にしっかり書き写すことをおすすめします。

③書き写し終えたら、何も見ないで、その計算や問題をもう一度ノートに解き直してみると、とてもよくわかってきます。



Q13:「音楽」「美術」「技術・家庭」「保健体育」なども「次学年の予習」をして新学年の授業に臨むほうがよいのですか。

A : (1)もちろん、その通りです。各教科の教科書が手に入ったら、その瞬間から、1教科でも多く、最後のページまで目を通してください。

(2)塾生の皆様の中で、楽器を演奏できる方や、音譜が読めて歌が歌える方は、「音楽」の教科書を手にしたら、一通り、自分の得意な楽器で演奏したり、歌ってみたりすることをおすすめします。このような音楽の「予習」ほど楽しい予習はありません。

(3)「美術」「技術・家庭」「保健体育」の教科書も、よく読めば面白くてために



なる内容がぎっしり詰まっています。ノートを取ったり、辞書で調べたりしなくても OK です。寝転びながらでもいいですから、それらの教科書をゴールデンウィークが終わるまでに、読んでしまってください。これからの1年が、素晴らしい学校生活になりますよ。

Q14：全部の教科の予習を1年分したほうがよいのですか。

A：(1)よくできる教科だけでも、挑戦してください。又、興味のある教科や成績アップを図りたい教科も、是非、チャレンジしてください。



(2)ただし、不得意な教科や苦手な教科は、よくわからないところまで、思い切って以前の学年にまでさかのぼり、ゼロからやり直すことをおすすめします。

(3)中学3年生でも、小学校で学ぶ漢字や計算が苦手だったら、苦手な学年までさかのぼって、ゼロからもう一度学び直しましょう。「よくわからないところまで遡(さかのぼ)って学び直すこと」を、開倫塾では「遡及(そきゅう)学習」と呼んでいます。

Q15：教科書全部を予習するのは大変そうですが…。

A：(1)1冊全部「予習」できそうな教科は、ゴールデンウィークが終わるまでに全部やり終える。

(2)ちょっと難しそうなら、教科書の第1章、第2章の半分までなどと、無理がない範囲で「予習」をしてくださいね。

(3)少しでも、次学年や次の学期、来月や来週、明日学ぶ内容を予め勉強することで、すべての教科の内容に興味をもてますよ。

Q16：毎回の授業の前にも予習をしたほうがよいのですか。

A：(1)もちろん、その通りです。

(2)①まずは、すべての教科書を、声を出して読む「音読」をすること。

②意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず「辞書」「用語集」「参考書」「インターネット」などで調べる。調べたことはノートに書き写して、覚えること。

③「練習問題」や「計算問題」などがあつたら、問題文を書き写し、必ずノートに解くこと。数学や算数は計算などの解き方もすべてノートに書き写すこと。

(3)予習をしていて、よく「理解」したら、予習の段階でも、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、

①教科書はスラスラとよく読めるようにすること

②何も見ないでスラスラといえるまでにすること(暗唱)

③大切なことは、何も見ないで正確に書けるまでにすること(暗記)



④大事な計算や問題は、問題を見た瞬間に正解が出るまでにすること

Q17：何だか、今までのお話のまとめみたいですね。

A：(1)学年が始まる前に1回目の「予習」をする。これに加えて、学年の途中、授業の前にも必ず「予習」をする。
(2)「予習」をして内容がよくわかったところは、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をしてすべて身に着ける。
(3)これが「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨む」という意味での「予習」の極意といえます。是非、チャレンジを。



Q18：最後に一言どうぞ。

A：(1)①「予習」をしてよく「理解」できたところは、「予習」の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をする。
②そして、何も見ないでスラスラとよく読めるようにする(暗誦)、何も見ないで書けるようにする(暗記)ことに、少しずつでもチャレンジすること。
③「予習」をして「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨む」。

(2)①このようなやり方での「予習」に少しずつでもチャレンジすることは、小学校でも、中学校でも、高校でも役に立ちますが、実は、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院、もっとはっきり言えば、社会に出てからの勉強に絶大な効果があります。



②なぜなら、これからの大学などでは「アクティブ・ラーニング」といって「予習」のときに教科の「内容」を理解し、少しでも身に着け、又、何がわからないかをはっきりさせたり、与えられた課題について自分の考えをまとめてから授業に臨むことが求められるからです。

③社会に出てからも新しく勉強することが山のようにどんどん出てきます。小学校、中学校、高校、大学で行った予習のように、自分の力で新しい分野を勉強することが求められるのは、実は社会に出てからなのです。ここで話した「予習の仕方」は、実は大学や社会に出てから「絶大な効果」を発揮するものです。今のうちにしっかり身に着けてください。

(3)小学生、中学生、高校生のうちから、少しずつでも「次学年の予習をして、新学年に臨むこと」「毎回、授業の前に予習をして授業に臨むこと」を「学習習慣」として身に着けてください。

(4)この3月・4月は次学年の「予習」をするのに絶好のチャンスです。夏休みも2学期の予習をする絶好のチャンス、冬休みも3学期の予習をする絶好のチャンスです。少しでもOKですから、是非、チャレンジしてくださいね。

No.2「靴(くつ)は手でそろえよう」

—「自立」から「自律」へ—

Q 1 : 「靴(くつ)は手でそろえよう」とはどんなことですか。

A : (1) 自分でぬいだ靴はぬぎっ放しにしないで、「手でそろえる」ということです。

(2) かなり多くの方は、自分でぬいだ靴をそのままぬぎっ放しにしておくようですが、今日から、それはやめましょう。

(3) 自分でぬいだ靴は「手でそろえる」ことを、「習慣」といたしましょう。



Q 2 : なぜですか。

A : (1) 自分でぬいだ靴は、ぬぎっ放しにしないで「自分の手でそろえる」ということは、自分の行動には責任を取るということを意味します。

(2) 自分の行動については最後まで責任を取る「自己責任」という考え方が、勉強を含めあらゆることについて必要です。その手始めが、自分でぬいだ靴は自分の手でそろえることです。

(3) この他に、「靴を手でそろえる」には、どのような意味があると思いますか。



Q 3 : 「靴を手でそろえる」ということは、自分の足元あしもとをよく見るということですか。

A : (1) ① その通りですね。さすが開倫塾の塾生、よいところに気が付きました。

② 「靴を手でそろえる」ということは、「いつも自分の足元を見る」ことも意味すると、考えます。

③ 「いつも自分の足元を見る」ということは、「いつも自分の足元を見て、自分を振り返る」「自分の行った行為がよかったかどうか反省する」ことを意味します。

(2) 孔子の教えを弟子たちが 499 章にまとめた「論語」の中に、「三省(さんせい)」という章があります。

「孔子の門人の曾子が言った。私は一日の中で何回も何回も、主として次の点について反省する。

① 一つは、他人のために相談に乗った時、ほんとうに誠意をもって考えてやったか、ということ。

② 二つは、友達との交際において、信義を尽くさないことはなかつたらうか。

③ そして、三つには、まだ自分の知識として完全に消化されていない事गरを、他人に教え伝えはしなかつたらうか、と。」

* 「論語抄」史跡足利学校発行 5 ページより引用<三省>

(3)①自分の足元をよく見る。

②注意深く生活し、交通事故や事件・事故に巻き込まれないようにしましょう。

③「注意一秒・けが一生」です。



Q4 : ところで、サブタイトルの「自立」から「自律」へとは、どのようなことですか。

A : (1)「靴を手でそろえる」ことは、自分の足元に光をあてて自分自身のことを見つめ、自分自身を振り返る力を身に着けることと考えます。

(2)自分の力で立つことができる、つまり「自立」から、徐々に自分の行動を自分の力で律する、コントロールすることができる「自律」に進むことを意味します。

(3)ものごとの大切さ、つまり「価値」を1つ1つのことの中に見出し、その大切さ「価値」の意味を自分の力で考え、「意味付け」をする。そして、何をしたらよいのか、何をしないほうがよいのかを自分の力で考える。これが「自律」です。

(4)「自立」から「自律」へ、「自律的に行動する能力」こそが、「靴を手でそろえる」ことの目的でもあります。

Q5 : 「自立」から「自律」へですか。ちょっと難しそうですね。

A : まずは、「靴を手でそろえる」から始め、自分自身を見つめ直し、そのあとは、今、行っていることの大切さとは何かなどを考えれば、「自立」から「自律」へは少しずつ実現できます。ゆっくりやってくださいね。



No.3「5S(ごえす)を身に着けよう」

Q 1 : 5S(ごえす)とは何ですか。

A : ローマ字で書くとSで始まる5つのことがらをまとめたものです。

- (1)「整理」 seiri … 要らないものは取り除く
- (2)「清掃」 seisou … きれいに掃除(そうじ)する
- (3)「整頓」 seiton … ものと同じところに置く
- (4)「清潔」 seiketsu … それらを継続する
- (5)「躰」 shitsuke … 自分から進んで行く



Q 2 : 例をあげて、具体的に説明してください。

A : わかりました。それでは、私がいつも持ち歩いている「カバン」を例に、「整理(seiri)」から具体的に説明いたします。

- (1)私は、いつも持ち歩いている「カバン」を1～2日に1回ずつ「整理」し、中に入っている要らないものを取り除き、捨てたり、別の決まった場所に置いたりしています。
- (2)なぜなら、いろいろなところで活動していると、新しい資料などがどんどん配布され、放っておくとすぐにカバンの中がいっぱいになってしまうからです。
- (3)1～2日に1回ぐらいは、要らないものを取り除くことが必要となります。

*このように「要らないものを取り除く」、これが「整理」です。



Q 3 : 「整理(seiri)」したほうがよいものは、「カバン」のほかにありますか。

A : あります。山ほどあります。

- (1)「筆入れ(ふでいれ)」の中も「整理」しましょう。
- (2)自分が使っている「机の上」「机の引き出しの中」「タンスの中」「ロッカーの中」も、時々でよいですから「整理(seiri)」したほうがよいと思います。
- (3)本立てや本棚も時々「整理(seiri)」しましょう。

*身近なところから、少しずつ「整理(seiri)」をしてみましょう。

Q 4 : 「整理(seiri)」の次の「清掃(seisou)」とは何ですか。

A : (1)「清掃(seisou)」とは、「整理(seiri)」し終わったら、「きれいに掃除(そうじ)すること」です。

- (2)「カバン」の中を「整理(seiri)」、つまり、「要らないものを取り除く」ことをしたあと、「カバン」の中をきれいに「掃除(そうじ)」しましょう。

(3)このように、「整理(seiri)」をしたら、そのあときれいに「清掃(seisou)」、つまり、掃除をすることが大切です。

Q 5 : 3つ目のS、「整頓(seiton)」とは何ですか。

A : (1)「整頓(seiton)」とは、「ものは同じところに置くこと」です。



(2)例えば、私の先ほどの「バッグ」の中は、できるだけこの「整頓(seiton)」をするように心掛け(こころがけ)ています。

①具体的にいうと、私の「バック」の前面にあるファスナーのついた小さな「ポケット」の中には、この10年来いつも決まったものが置いてあります。何だと思いませんか。

②それは、「スイカ」と「カギの束(たば)」です。私は電車やバス、地下鉄などに乗ることが多いので、そのときは「スイカ」を使います。また、私は自動車を運転しますので、自動車のカギは必要不可欠です。家のカギや開倫塾の本部事務所のカギも必要です。

③ですから、私はスイカとカギの束はいつも同じ場所、つまり、小さな「ポケット」の中に置いておくようにしています。

(3)このように、「ものは同じ場所に置く」という意味での「整頓(seiton)」を、カバンの中で行っています。



Q 6 : 「整頓(seiton)」しておくと、何かよいことがありますか。

A : (1)たくさんあります。私は、カバンの前面の小さなポケットの中に「整頓(seiton)」して「スイカ」と「カギの束」をいつも入れておきますので、「スイカ」と「カギ」を捜し回ったり、忘れたりすることが、めったにありません。

(2)皆様の中で、「忘れ物」をする方、大切なものを「捜し回る」方は、「ものを同じところに置いておく」という意味での「整頓(seiton)」をしていないからではないでしょうか。

(3)筆入れの中や机の上、机の中、タンスやロッカーの中、本立てや本棚を時々「整頓(seiton)」して、「大切なものは同じところに置く」ことを心掛けてみましょう。「忘れ物」や「ものを捜し回る」時間が、グンと減ってきますよ。

Q 7 : 「5S」の4番目の「清潔(seiketsu)」とは何ですか。

A : (1)「清潔(seiketsu)」とは、「①『整理(seiri)』②『清掃(seisou)』③『整頓(seiton)』をやり続ける、継続すること」です。

(2)例えば、私は、自分が持ち歩くカバンの前面の小さなポケットの中の「5S」は、この7~8年ずっとやり続けています。カバンの中は1~2日に1回は「整理」「整頓」「清掃」をしています。「スイカ」と「カギの束」は、いつもカバンの前面の小さなポケットの中に置き「整頓」をし続けています。

(3)このように、小さなことでも、小さな場所についても、大切と思われるところから1つ、2つとやり続ける、継続する。これが「5S」の「清潔」です。「5S」を継続し、清潔な状態を保つという考えはとても大切です。

Q 8 : 「5S」の最後の「躰(Shitsuke)」とは何ですか。

A : (1)「躰(Shitsuke)」とは、自分で「5S」をやると決めたのだから、「自分から進んで行うこと」です。

(2)例えば、カバンの前面の小さなポケットの中に「スイカ」と「カギの束」を入れておこうと決めたら、自分で決めたことなので「自分から進んで行うこと」です。

(3)また、みんなでこのようにやろうねと決めたら、「自分たちで決めたことは、自分から進んで行うこと」。これが、「5S」の第5番目の「躰(Shitsuke)」です。



Q 9 : 「5S」は役立つのですか。

A : (1)カバンの中や机の上、机の中、タンスやロッカーの中、本立てや本棚など、身近なところで「5S」は役立ちます。

(2)家庭でも、例えば、玄関、台所、居間、トイレ、風呂、シャワールームなども「5S」を行えば、とても役立ちます。

(3)学校でも、教室や部活動で用いる体育館など、ありとあらゆる場所で、「5S」は役立ちます。

Q 10 : 社会に出ても「5S」は役立つのですか。

A : (1)学校だけでなく、ありとあらゆる職場でも「5S」は役立ちます。

(2)例えば、工場、建設現場、事務所、コンビニ、商店、ガソリンスタンド、病院、介護施設、電車や船舶、飛行機やジェット機など、文字通り、ありとあらゆる場所で「5S」は役立ちます。

(3)このように、家庭でも、学校でも、社会でもありとあらゆるところで、役に立つのが「5S」です。少しずつでOKですから、身近なところから「5S」を身に付けてください。日本国内だけでなく、世界各国どのような各地域でも「5S」は役立ちます。

Q 11 : 「5S」の大切さが少しずつわかってきました。「5S」の「考え方」も大切なのですね。

A : その通りです。さすが、開倫塾の塾生ですね。何かものごとをやりそうとするときにも、「5つのS」で始まる「5S」の「考え方」はとても参考になります。

(1)①例えば、「5S」の一番最初の「整理(seiri)」は「要らないものは取り除く」という意味です。

②やらなければならないことが、どんどん増えてきたときはどうするか。



③あれもこれもはできない。そんなときには、「今やっていることの中でやめたほうがよいことは、よく考えた上でいさぎよくやめて、今必要なこと、これから必要なことを行う」。これも「整理(seiri)」です。

(2)①今やっていることをやめたあとは、きれいに「掃除(そうじ)」、「清掃(seisou)」、後始末(あとしまつ)をする。

②きれいに後始末をしたら、仕事の順序、手順をよく考える。これは、「ものは同じところに置く」「整頓(seiton)」の考えですね。

(3)①一度始めたことはやり続ける、継続する(「清潔 seiketsu」)。

②自分で決めたこと、自分たちで決めたことは、人からやるようにといわれなくても、自分から創意・工夫(そうい・くふう)して進んで行く。これは、「躰(Shitsuke)」の考えです。

③このように、「5S」の「考え」は、ものごとをなしとげるときにも役に立ちます。

Q12：なぜ開倫塾では「5S」を塾生の皆様にすすめるのですか。

A：(1)①開倫塾の創業の地であり、現在も本社の所在地である栃木県足利市は、日本のみならず世界で最も熱心に「5S」と取り組んでいる街で、日本のみならず世界各地から毎日のように「5S」の視察団が訪問しています。

②また、2012年から2年ごとに「世界5Sサミット」が開催され、本会2020年で第5回目を迎えるほど、「5S」が盛んです。

③開倫塾もメンバーである足利商工会議所には「足利5S学校」があり、塾長はその役員を務め、また、開倫塾の先生は毎年1名ずつ5Sインストラクターの研修を受け、資格を取得しています。

(2)①「5S」は、職場だけでなく、学校や家庭でも役立つものです。

②そこで、開倫塾では、足利5S学校の許可を得て「開倫5S学校」を開倫塾の全校舎で開校しています。

③少しずつですが、「5S」について、その基本的な考え方をお伝えしています。

(3)皆様のお役に立つと考えますので、少しずつでOKですから、「5S」に親しみ、チャレンジし、家庭や学校での生活、社会に出てから役立てていただければ、こんなうれしいことはありません。



No.4「美しい立居振舞い(たちいふるまい)を身に着けよう」

Q 1 : 「美しい立居振舞いを身に着けよう」とは、どのようなことですか。

A : (1) No. 3 「5Sを身に着けよう」の5番目に「自分から進んで行く」という意味での「躰(しつけ)」がありましたが、「躰(しつけ)」には別の意味もあります。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」 ② 「美しい言葉遣い(ことばづかい)」 ③ 「元気なあいさつ・あいさつはこちらから」 |
|--|

この3つです。



(2) 開倫塾では、No. 2 「靴は手でそろえる」、No. 3 「5S(ごえす)」と、この「①～③ 3つの躰(しつけ)」、No. 12 「感謝の心をもって勉強しよう」も、「開倫塾12の躰プログラム」として塾生の皆様にご紹介・おすすめしています。是非、これらも、広い意味での「学習習慣」の一環として身に着けて頂きたいと希望いたします。

Q 2 : <美しい立居振舞い(たちいふるまい)>とは何ですか。具体的にわかりやすく説明してください。

A : (1) 「エチケットを身に着ける」ということです。

- ① 例えば、開倫塾や学校の授業中には、授業中のエチケットを守ることが大切です。おしゃべりをすること、ゲームやスマホをすること、歩き回ることなどは、授業中のエチケットに反します。「美しい立居振舞い」とはいえませんが。
- ② 授業が終わったら、使用した机やいすはきれいに元通りにすること、自分で出した消しゴムのカスはティッシュでとりまとめること、自分で出したゴミはすべて持ち帰って家で処分することなどは、「美しい立居振舞い」といえます。
- ③ 例えば、部活動などではみんなで準備や後片付け・掃除(そうじ)をする、職員室を出入りするときにはロックやお辞儀をするなどは、「美しい立居振舞い」です。よく考えれば、学校生活にも「美しい立居振舞い」として大切なことがたくさんあります。少しずつ身に着けていきましょうね。



Q 3 : 社会に出てから、「美しい立居振舞い」として大切なことは何ですか。

A : (1) 「お先にどうぞ(After you、アフター・ユー)」です。これは、社会での「美しい立居振舞い」の代表例です。具体的には、

- ①建物や部屋の出入口では、「他の人に先を譲る」こと。
- ②乗物(バスや電車、エレベーターなど)に乗るときや降りるときには、「お先にどうぞ」と「他の人に先を譲る」こと。
- ③乗物の座席を譲ること。

(2) 「重たいカバンや、重たい荷物などは持ってあげること」も「美しい立居振舞い」です。

(3) 障害のある方がいらっしゃったら、「何かお手伝いできることはありませんか」などと声をかけ、できることはやってあげること。



- ①「点字ブロック」の上には、物を置かないこと。
- ②目の不自由な方には、必ず自分の氏名を名乗ってからお話をすること。
- ③語尾を明瞭(めいりょう)に、はっきりして、できるだけゆっくり話すことなどに気を付けることは、「美しい立居振舞い」と考えます。

(4) 「食事のときには、全員の料理がそろうまで手を付けない」こと。

*逆にいうと、レストランや食堂は、料理はバラバラに出さないこと、できるだけ全員分を一斉(いっせい)に出すことが求められます。



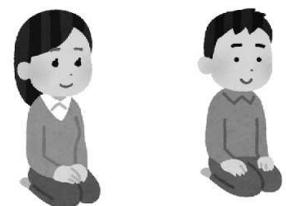
(5) 場合によっては、その場に合わせた「服装も大切なエチケット」、「美しい立居振舞い」に含まれます。

*別に高価な服装でなくてもよいのです。その場に合う小ざっぱりとした服装が大切です。

Q 4 : 歩き方や座り方、お辞儀の仕方も「美しい立居振舞い」に入るのですか。

A : (1) はい。あまり無理をすることはありませんが、きれいな歩き方や座り方、お辞儀の仕方をする人を見かけたら、少しずつでも参考にすることをおすすめします。

(2) ただし、くれぐれも無理をしないことです。私は、中学校と高校のときに足首を何回も捻挫(ねんざ)したため、正座をすることが苦手です。そこで、座るときにはできるだけいすを使わせて頂いています。いすのないときは、「あぐら」をかかせて頂いています。くれぐれも無理はしないことです。



Q5：では、どこで「美しい立居振舞い」を身に着けたらよいのですか。

(1)私の場合には、中学で柔道や陸上競技をやっていたので、練習の最初や最後のミーティングでのあいさつ、大会の開会式と閉会式、試合の前のあいさつ、試合終了後のあいさつなどで、「姿勢を正しくすること」や「お辞儀の仕方」をずいぶん学ぶことができました。

(2)①日本の学校では、入学式、卒業式、学期ごとの始業式・終業式、毎週の朝礼、毎日のHRや反省会、修学旅行や宿泊体験、文化祭や体育祭など様々な会合や学校行事で「姿勢を正すこと」や「お辞儀の仕方」をはじめ「美しい立居振舞い」を具体的に学ぶことができます。



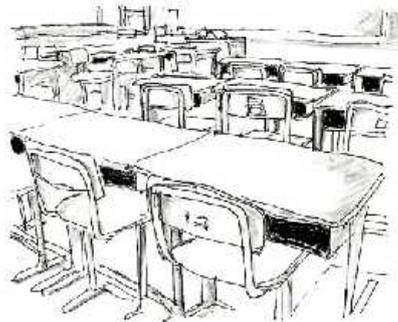
②また、学校外のスポーツ団体、文化団体、社会活動の団体の様々なプログラムでも、「美しい立居振舞い」を身に着けるチャンスが山ほどあります。

③学校や学校外の活動に積極的に参加し、「立居振舞い」をしっかり身に着けてくださいね。

(3)①皆様は、あまりご存知ないと思われませんが、実は、日本の小学生、中学生、高校生の多くは、世界でも最もよく「立居振舞い」の教育がなされていると、世界中の方々から高く評価されています。

②日本人の「立居振舞い」のよさは、学校や家庭、様々な形での社会教育の成果と考えます。

③特に、学校での教科以外の教育活動、学校外の民間教育活動、それに、家庭での躰教育の成果だと考えます。



No.5「美しい言葉遣い(ことばづかい)を身に着けよう」

Q 1 : 「美しい言葉遣い(ことばづかい)」はなぜ必要なのですか。

- A : (1) 敬語表現を含む美しい言葉遣いは、コミュニケーション、人間関係を築き上げる基本中の基本、ことばは心、だからです。
- (2) どんなに学校の成績が優秀でも、どんなに難しい学校に入学しても、どんなに難しい試験に合格しても、ぞんざいで、乱暴な言葉遣いをし続けたら、他の人とのコミュニケーションはうまくできず、人間関係を築き上げることは困難です。
- (3) ですから、教科の勉強や受験勉強と、同時併行して、敬語表現を含む「美しい言葉遣い」を少しずつでも身に着けることが大事です。



Q 2 : どうすれば「美しい言葉遣いを身に着けること」ができますか。

- A : (1) 「標準的な言葉遣い」で書かれている、開倫塾のテキストや学校の教科書で学ぶことができます。
- (2) 開倫塾や学校の先生方の言葉遣い、TV やラジオのアナウンサーの言葉遣いで、美しいと思われるものがあれば、大いに参考にしてください。
- (3) 詩、短歌、俳句、小説、エッセーなどの「名作」と呼ばれる作品は「美しい言葉遣い」であふれています。
- ① 新聞や本を、折に触れてたくさん読み、「美しい言葉遣い」を大いに学んでください。
- ② 特に、「詩集」はおすすりめです。感動あふれる、「美しい言葉遣い」の集まりが、詩集といえます。気に入った「詩」は空じていえるまでにしましょう。皆様の好きな詩人はだれですか。私は高村光太郎の「智恵子抄」という詩集が大好きです。アメリカ人では、「ポー」という作家の詩が大好きです。
- ③ TV やラジオの出演者の中には「ウケ」ることをねらい、「美しい言葉遣い」からかけはなれた言葉遣いをする人もいます。あまり参考にしないようお願いいたします。面白がってまねをし過ぎると、それが身に着いてしまいますよ。



Q 3 : 人とお話をするときのポイントは何ですか。

- A : (1) ①「傾聴(けいちょう)」、「人の話によく耳を傾ける」ことです。「人の話は最後まで聞くこと」が大事です。
- ②では、「延々(えんえん)と途切れなく話し続ける人」の話は、どのように聞

いたらよいか。2～3分、長いときには5分以上相手が一方的に話し続けたら、「ちょっとよろしいですか」といって、聞きたいことや、こちらから伝えたいことがあれば、聞いたり、伝えたりするとよいと考えます。

③ただし、「礼を尽(つ)くす」ことが大事です。

(2)①会話は「ことばのキャッチボール」です。

②相手が1～2分話したら、相手のお話を踏まえてこちらも1～2分話す。相手が4～5分話したら、相手のお話を踏まえてこちらも4～5分話す。

③話すときには、できるだけ「ていねい」な言葉遣いで、相手に対して尊敬(Respectリスペクト)の心をもってお話をすることを心掛けましょう。



Q 4 : 「美しい言葉遣い」の反対は何ですか。

A : (1)それをいわれたら、相手が嫌な気持ちにする「言葉遣い」です。

(2)「親しき中にも礼儀あり」です。大切なことを伝えたいときには、身近な人ほど、親切・ていねいでわかりやすい、「言葉遣い」を心掛けましょう。

(3)特に、相手がよく知らないことを伝えるときには、できるだけわかりやすい、簡単な言い方(表現)で伝えることも、「美しい言葉遣い」と考えます。

Q 5 : 相手の意見や考えに反対の意見を述べるときにはどうしたらよいのですか。

A : (1)まずは、「相手が考えていることを自分はちゃんと理解していること」を伝えること。

(2)その上で、「あなたはそう考えるかもしれないが、私はこう考える」と、自分の意見を述べるのが大切です。

(3)頭から相手の意見や考えを否定することは、相手の立場を尊重することにならないので、できるだけ避けましょう。

* 「美しい言葉遣い」に出会ったら少しずつメモをしておき、参考にしましょうね。



以上



No.6「元気なあいさつをしよう。あいさつはこちらからしよう」

Q 1 : なぜ元気なあいさつが必要なのですか。

A : (1) 「美しい言葉遣い」と同じように、「元気なあいさつ」は人間と人間とのコミュニケーション、意志疎通(いしそつう)の基本中の基本だからです。

(2) 「あいさつ」にはいろいろなものがあります。例えば、

- ① 「おはようございます」
- ② 「こんにちは」
- ③ 「元気ですか」
- ④ 「こんばんは」
- ⑤ 「おやすみなさい」
- ⑥ 「いただきます」
- ⑦ 「ごちそうさまでした」
- ⑧ 「ありがとうございます」
- ⑨ 「失礼します」「お先に失礼します」
- ⑩ 「すみませんでした」
- ⑪ 「はじめまして」
- ⑫ 「よろしくおねがいします」
- ⑬ 「はい」
- ⑭ 「バイバイ」
- ⑮ 「では、又、明日」「では、又、来週」



(3) このような「あいさつ」を、自分から進んで「元気よく」することが大切です。

- ① 小さな声でボソボソとあいさつをするよりは、相手に聞こえるくらいの、少し大きな声で「あいさつ」をすることが大切です。
- ② 「あいさつ」をするときには、できたら、「相手の目」を見て、「アイコンタクト」をして、「あいさつ」をすることが大切です。
- ③ 相手と目を合わせず、小さな声であいさつをするよりは、相手の目を見て、相手に聞こえる少し大きな声で、「元気にあいさつ」をすることを心掛けましょう。

Q 2 : あいさつは「こちらからする」ものなのですか。

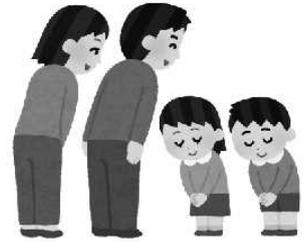
A : (1) その通りです。

(2) 「あいさつは、本来、こちらからする」ものです。

(3) 「あいさつは、こちらから元気よくする」ことを心掛けましょう。

〈あいさつをすると何かよいことがあるのですか〉

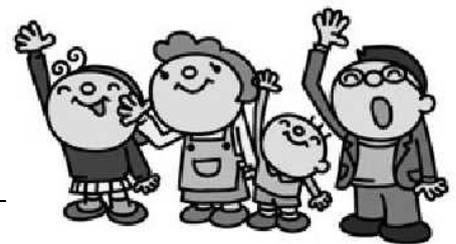
(1)たくさんあります。例えば、家族や友だち、先生方とちょっと気まづくなったときなどに、「こちらから元気なあいさつ」をすると、「気まづさ」が、少しずつ少なくなります。



(2)例えば、家族とけんかなどをして、ちょっと気まづくなったらどうするか。朝起きたら「おはよう」、朝食の前は「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさまでした」、学校に出かけるときには「行って参ります」、学校から家に帰ってきたら「ただいま」、夕食前には「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさまでした」、夜寝る前には「おやすみなさい」などと、少し大きな声で「あいさつ」をすれば、家族間の人間関係は、一気によくなります。

(3)又、例えば、学校の友だちと何かの拍子に仲たがいをしてしまったらどうするか。朝会ったら「おはよう」、学校から帰るときには「さようなら」、「バイバイ」と少し大きな声で「あいさつ」をしましょう。すぐに元通り仲良くなれます。

*このように、「元気なあいさつ」「あいさつはこちらからする」は人間関係を形づくったり、人間関係を回復するのに、計り知れないほど、絶大な効果があります。



Q3：メールや手紙であいさつをしてもよいのですか。

A：(1)もちろんです。メールや手紙を書くときにも、心のこもった「元気なあいさつ」を添えてください。

(2)もっと言えば、メールや手紙こそ、心のこもったあいさつや相手を気遣うあたたかいことば、感謝を表すことばを、できるだけいねいな言い方、表現で書き表すことをおすすめします。

(3)「元気なあいさつをすること」「あいさつはこちらからすること」は、人間としての行動の第1と考えます。



No.7「辞書を活用する習慣を身に着けよう」

Q 1 : どのようなときに辞書で調べたらよいのですか。

A : (1)開倫塾のテキストや教材、問題集、学校の教科書や資料集などありとあらゆる教材を勉強していて、意味のよくわからない語句に出会ったら、「**気持ちが悪い**」と考え、辞書を用いて調べることが大切です。

(2)大切なのは、「**意味のよくわからない語句に出会ったら、『気持ちが悪い』と考える**」ことです。

(3)時間があまりなければ、意味がよくわからなくてもスルーしてしまえばよい、読みとぼして大体の意味がわかればよいという考えもあります。しかし、できるだけ、意味のわからない語句はそのまま放置しないで、辞書を用いて意味を確かめ、十分に「理解」したほうがよいと考えます。



Q 2 : 辞書で意味を調べたあとは、どうすればよいのですか。

A : (1)辞書で「調べた意味」は、「ノート」や「カード」に書き写し、よく「理解」することです。「理解」できなければ、更(さら)に調べる、わかるまで調べることです。

(2)意味を書き写し、よく「理解」できた語句は、「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返して、その語句の意味を正確に覚えること、筆順も含め正確に書けるまでにすることです。

(3)一度調べた「語句」と「その意味」をよく「理解」、正確に覚え、正確に書けるまでにすることで、身に着けている「ことばの数」が一気に増えます。

(4)身に着けた「ことばは力」「ことばの数は力」です。「読解力」の基礎ができます。



Q 3 : 「意味調べノート」や「単語カード」は、そんなに役に立つのですか。

A : (1)一度作成した「意味調べノート」や「単語カード」は、1ページ目から、又、1枚目から昨日作成したところまで、毎日、声を出して読み続けることです。知らないうちに、全部覚えられます。

(2)その意味も含めて、よく書けなそうな語句は繰り返し「書き取り練習」をすることです。必ず、正確に書けるようになります。

(3)①一度作成した「意味調べノート」や「単語カード」は決して処分しないで、「一生保存」、繰り返し読み直しましょう。

②短い期間の記憶(短期記憶)が長い期間の記憶(長期記憶)になり、「記憶の痕跡」を残すことができます。忘れることが少しずつ減ってきます。

③辞書で調べた語句のすべてを、身に着けることができます。



Q 4 : 英語はどのような辞書を使えばよいのですか。

A : (1)①「英和辞典」、「和英辞典」、「英英辞典」の3つの辞書を使いこなしましょう。

②どの辞書も「初級用」、「中級用」、「上級用」があります。自分の英語のレベルに合わせて活用してくださいね。

③電子辞書でも紙の辞書でも OK です。どちらも使いこなせるようにしておくとう便利です。

(2)①電子辞書は、持ち運びに便利です。紙の辞書は、落ち着いてじっくり勉強するのに便利です。

②大学や大学院によっては、入学試験や学校の定期試験のときに「紙の辞書」のみ持ち込み可の場合があります。「電子辞書」にはパソコン機能がついていることがあるからです。

③「紙の辞書」は普段から使い込んでいないと、パツ、パツ、パツと調べることができず、役に立ちません。高校卒業までに、「電子辞書」と「紙の辞書」の両方を使いこなせるようにしておいてください。一生にわたって、どちらも必ず役に立ちますよ。



「英英辞典」にも少しずつ慣れ、使いこなそう

(1)「英英辞典」とは、「英語の意味が英語で書いてある辞典」です。

(2)英語の学習に少し慣れてきたら「英英辞典」を積極的に使って、できるだけ早く使いこなしましょう。

(3)「英英辞典」にも、「入門用」「初級用」「中級用」「上級用」と、学習者のレベルに応じたものがあります。自分の英語能力に応じたものを選び、積極的に使いこなしてください。

*英語で様々なことを表現するときに、とても役に立ちますよ。

Q 5 : 家には辞書がないのですが、どうすればよいですか。

A : (1)「学校図書館」や「公共図書館」には、すべての辞書があります。

(2)図書館が使えるようになったら、毎日でも図書館に行き、ありとあらゆる辞書を使いこなしてください。

(3)「ことばは力」です。「ことばの力」を身に着けるのに一番役に立つのは「辞書」です。図書館にある「辞書」を使いこなしましょう。

Q 6 : ところで、身に着けていることばの数は多いほうがよいのですか。

A : (1)①当然です。普段の生活をするときも、学校で授業を受けるときも、仕事や社会的活動をするときも、目の前に書いてある「ことば」の意味がわからなければ、先に進みません。

②他人と話をしているとき、学校で授業を聞くとき、仕事や社会的活動をするときに、そこで話され、耳にすることばの意味がよくわからなければ大変です。

③1つ1つの「ことば」の意味がよくわからなければ、自分が考えたり、話をしたり、書いたりするときに、とても困ります。

(2)①このように、「ことば」の「意味」を知り、「読める」「聞き取れる」「書ける」「話せる」こと、つまり、そのことばを「身に着ける」ことはとても大切です。

②「自分が身に着けていることばの数」は、「少ないよりは多いほうがよい」ことは当然です。

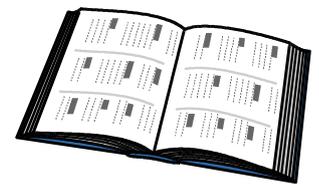
③1つ1つの教科には、教科ごとに用いられることば(語句)が1000、2000と、1000単位であります。

(3)①同様に、1つ1つの仕事や社会的活動にも、その仕事や活動ごとに用いられることばが1000、2000、3000と、1000単位であります。

②「こんにちは」「元気ですか」「おやすみなさい」など「あいさつ」のことばを使いこなすことも大切ですが、「生活で用いることば」「学校で用いることば」「仕事や社会的活動で用いることば」など様々な分野で用いる1000単位のことばも大切です。これは、日本語だけでなく、英語をはじめすべての言語でも全く同じです。

③少し大変かもしれませんが、わからない語句に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず辞書で調べる。そして、調べたことは「意味調べノート」か「単語カード」に書き写し、正確に読めて、書けるようにする。さらには、「意味調べノート」や「単語カード」は、いつも1ページ目から、1枚目から読み直し、全部正確に覚え、正確に使えるようにする。

(4)これが、身に着けていることばの数をどんどん増やしていく方法です。



Q 7 : 最後に一言どうぞ。

A : (1)「ことば」を身に着けるときには、どのような「場面」や「状況」(これを「文脈 contextist(コンテキスト)」といいます。)でその「ことば」が用いられるかをよく「理解」し、身に着けることが大切です。

(2)ですから、1つ1つの「ことば(英語なら単語)」ごとに「意味」や「書き方(つづり、スペリング)」を身に着けるのではなく、その「ことば(単語)」が用いられている文章も一緒に「音読練習」などを通して覚えてしまうことをおすすめします。

(3)ぜひ、チャレンジしてくださいね。

No.8「新聞を毎日読む習慣を身に着けよう」

Q 1 : 新聞は毎日読んだほうがよいのですか。

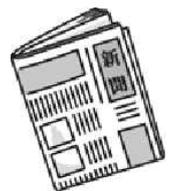
A : (1) その通りです。新聞は、1日30分以上、毎日、読んだほうがよいと「確信」します。

(2) 今回の新型コロナウイルスによる感染症の拡大についても、スマホやTVによる報道にプラスして、新聞を毎日読むことにより、かなり正確に現状を把握し、対策を考えることができます。

(3) もし、中国に「言論の自由」、新聞を含めた「報道の自由」が、日本をはじめ欧米諸国のように保障されていたら、ここまでの感染拡大はなかったと考えるのは、私だけではないと考えます。

Q 2 : では、お聞きします。新聞とは何ですか。報道の自由とは何ですか。

A : (1) 新聞は、「社会の番犬(Watch Dog)」です。社会の中でおかしなことがあったら、「社会の番犬」としてワンワンと大きな声で吠え、「ここがおかしいよ」とみんなに知らせるのが新聞の仕事、社会的使命(ミッション)と私は考えます。



(2) 中国の1人の医師が新型肺炎の危険性を指摘し、その医師が処罰されそうになったら、中国中、いや世界中の新聞が総力を挙げて取材して「それはおかしいよ」と報道し、どんなに力を持った政府であっても、世の中を正しい方向にもっていくよう批判をしなければなりません。

(3) この「ちょっとおかしいのではないか」という「批判的精神」をもつこと、社会に対して「警鐘」を鳴らすことこそ、新聞の真骨頂、新聞の本来の役割と考えます。

Q 3 : 小学生、中学生、高校生も新聞を、毎日、30分以上読んだほうがよいのですか。また、新聞を読んで、わかるのですか。

A : (1) 私の場合、小学校4年生になったときに、クラス担任の岡典子先生から「皆さん、4年生になったので、新聞を毎日読みましょう」といわれて以来、新聞を毎日読んでいます。

(2) 小学校4年生のときには、新聞に書いてあることの全部は、よくわかりませんでしたが、わかるところもありました。TV欄やスポーツ欄、天気予報、近くの街の記事などは、小学校4年生でもわかるものが多かったと記憶しています。

(3)一番よくわかったのは、スポーツを含めた「報道写真」と、連載マンガ、それに投書欄でした。特に、新聞には素晴らしい「写真」が毎日たくさん出ていたので、ワクワク、ドキドキしました。少しずつ慣れてくると、新聞の一面の下のほうにある「コラム」に面白いことが書いてあることに気づき、毎日読むようになりました。

(4)このように、新聞は小学校4年生でも十分にわかります。今の小学生は、皆、何十年か前の私よりもはるかに優秀です。是非、小学校1～2年生から、わかるところだけでもOKですので、新聞を、毎日読んでください。

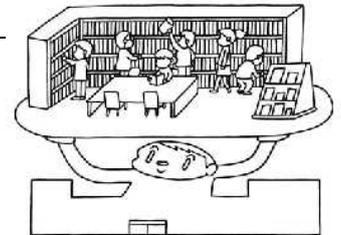
〈保護者の皆様へのお願い〉

(1)家で購読している新聞で、御家族の皆様が読み終えて不要になった昨日の新聞を、お子様の勉強用に、毎日、プレゼントしてあげてください。素晴らしい教材となりますので、御協力ください。

(2)御家庭で新聞を購読なさっていない場合は、よくお話し合いになって購読して頂くのが一番です。勤務先や知り合いから、不要になった新聞を頂いてきて、お子様にプレゼントすることも、是非お考えください。

(3)週に1～2回、コンビニで新聞を買い求め、御家族の皆様が読み終えた新聞を、お子様に、教材用としてプレゼントすることも有り難く思います。

(4)学校図書館や公共図書館が、使用できるようになったら、週に何回か出掛けて、何種類かの「新聞」を読むように、御家庭でも御指導ください。



Q 4 : 新聞を読んだあとは、どうすればよいのですか。

A : (1)一番のおすすめは、興味のある記事や気になる記事を「カッターやハサミ」で切り取り、「スクラップブック」、つまり、使いかけの「ノート」や「台紙」(広告のウラでもOK)に「のり」で貼り付けて保存することです。

(2)保存した記事を、何回も何十回も、読み返すことです。

(3)記事を読み、考えたことや感じたことを書き添えてもよいと思います。

(4)切り取った新聞をまとめて、空箱などに入れておき、あとでまとめて読むことも、「超おすすめ」です。「スクラップブック」がすべてではありません。大切なのは、気になる「記事」を切り取って保存し、何回も読み直し、自分の頭で考えることです。

(5)但(ただ)し、図書館の新聞はみんなのもの、「公共物」です。絶対に切り取ってははいけません。お金があったらコピーする、なければ、「ノート」か「カード」に書き写すことです。



Q 5 : 新聞を毎日読んで身に着くものは何ですか。

A : (1)①「これはちょっとおかしいのではないか」ということを、新聞の目を通して
知ること、「自分で考える力」「批判的思考(クリティカル・シンキング)
能力」が身に着きます。

②そのためには、1つの新聞だけを長期間読み続けるのではなく、時々、い
くつかの新聞を図書館などで読み、「読み比べること」が大切です。

③毎日読んでいる新聞社の見方の他に、ちょっと違った見方をする新聞社もあ
ることを知りながら、1つのお気に入りの新聞を読むことが大切です。

(2)地域や日本、世界で何が起きているのかの最新の知識を得ることができます。

①「世の中の動き」を、最も正確に伝えるのが新聞だからです。

②政治・経済・国際関係・ビジネス・教育・文化・福祉・健
康・旅行・趣味・映画・TV・読書など、ありとありゆる分
野の情報を、新聞で知ることができます。

③囲碁や将棋、数独、クロスワードパズル、連載小説や4コ
ママンガ、天気予報まであります。

		5	3				
8							2
	7			1		5	
4					5	3	
	1			7			6
		3	2				8
	6		5				9
		4					3
					9	7	

(3)新聞記事の多くは5W1Hでわかりやすく書かれています。そこで、新聞を毎日読
むことで、新しい文章や情報を正確に、又、論理的・分析的に読み解く力、つま
り「読解力」を身に着けることができます。

①開倫塾のテキストや学校の教科書、教材、定期試験、模擬試験、入学試験等で、
皆さんは毎日のように新しい文章に出会っています。

②その新しい文章や情報に出会ったときに一番大切なのは、それらの文章や情報
を正確に、又、論理的・分析的に、又、一定時間内に読み解く力、つまり、「読
解力」です。

③新聞を、毎日30分以上読み込むことが「学習習慣」として身に着いている人
は、一定時間の中で新しい文章や情報を正確に、又、論理的・分析的に読む「読
解力」が身に着いています。ですから、学校の成績はよく、試験、特にトップ
校・難関校の入学試験にも強いこと当然です。

④最近の「中高一貫校入試」「私立中入試」「私立高入試」「公立高入試」「大学
センター入試」「大学独自入試」は、問題文と設問・選択肢などを合計した文
章や情報量がとても多くなっています。そのため、短い試験時間内に、大量の
文章を十分に読み終えることができず、入試に失敗する例が数多く見られます。
トップ校・難関校の入試対策としても、新聞を30分以上毎日読むことは欠か
せません。



＜英字新聞も読んだほうがよいのですか＞



A : (1)当然です。

①「英字新聞」には、中学生用、高校生用や週に1回発行のもので日本語の解説が入ったものがあります。

②まずはそこからスタートするのも、一手です。

③英検準2級に早めに合格したら、毎日発行される「英字新聞」を、毎日1時間以上かけて熟読することをおすすめします。

(2)「英字新聞」でおすすめの第1は、「読売新聞」の英語版「Japan News」です。

①まず、日本語の「読売新聞」を、毎日30分以上よく読むこと。

②次に、よくわかる内容のところだけでOKですから、「読売新聞」の英語版、「Japan News」を、毎日1時間くらい、辞書を引かずによく読むことです。

③できれば、「英字新聞」は小さな声を出しながら「ボソボソ」と読みましょう。

④最後に、その日に一番気になる「英字新聞」の記事をカッターで切り抜き、又は、コピーをしてノートにのりで貼り付け、よくわからない語句は、辞書を用いて、一行一行丁寧に「精読」しましょう。

⑤辞書で調べたことは、「ノート」に書き写すこと。「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、すべて身に着けることも、確実に行ってください。

(3)英字新聞でおすすめの第2は、「The Japan Times」です。

①1時間～2時間かけて辞書なしですべて読む。

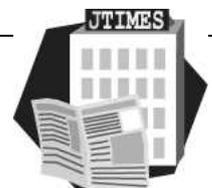
②気になる記事は1つか2つかッターで切り取り、又は、コピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書で調べながら精読する。

(4)英字新聞でおすすめの第3は、「The Japan Times」の中に入っている「The New York Times」です。

①これは内容豊富なので、2～3時間かけて毎日読む。時間があれば、4～5時間読む。

②気になる記事はカッターで切り取るかコピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書を用いて徹底的に精読することをおすすめします。

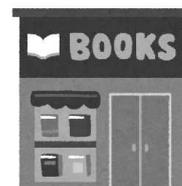
(5)「Japan News」→「The Japan Times」→「The New York Times」と進めば進むほど、1つの記事の長さが長くなり、記事も調査・報道とって本格的なものが多くなりますので、読み応(ごた)えがあります。トップ校や難関校の大学や大学院の入試対策としては、更(さら)には、TOEICやTOEFL対策、国際企業や国際機関の採用試験対策としては、この3つの英字新聞だけで十分と考えます。



No.9「読書の習慣を身に着けよう」

Q 1 : どのような本を読んだらよいのですか。

- A : (1)「学校の各教科の教科書で紹介している本」が、おすすめ本の第1です。この本だけは読んでほしいという代表的な作品を、各教科書の編集者の先生方が選び抜いて紹介しているからです。
- (2)「御家族の方、開倫塾や学校の先生がおすすめしている本」が、おすすめ本の第2です。今までの人生を振り返って、自分が読んだ本の中で、この時期の皆様に、是非、読んでもらいたいと考えて推薦して下さるものだからです。
- (3)「学校図書館や公共図書館に置いてある本」が、おすすめ本の第3です。どちらの図書館にも、図書館の専門家である図書館司書の先生が選んでくださった本が、わかりやすく分類されて置いてあるからです。
- (4)「新聞や雑誌、TVやラジオ、インターネットなどで紹介された本」の中にも、おすすめの本があるかもしれません。1つ1つのメディア(媒体)の信頼性をよく考えて、参考にしてください。
- (5)「書店に行き、直接本に触れ、内容を見て、読むか読まないか、買うか買わないかを定めること」も大いにおすすめします。(ただし、お金に余裕があればですが…)
- (6)本屋さんの中には、「ブック・オフ」など中古本専門の本屋さんもあります。時々、「中古本の本屋さんに出掛け、読みたい本を選ぶ」のも面白いと思います。
- (7)友達や知り合い、親せきなどの持っている本を借りることもあるかもしれませんが、返し忘れて、傷つけたりすることもあります。ですから、「本の貸し借りはできるだけ避ける」ことをおすすめします。



Q 2 : どのように本を読んだらよいですか。

- A : (1)「本の読み方」「読書の仕方」には「スピードをどんどん上げて読む」「速読」と、「じっくりと腰を落ち着けて、一語一語かみしめながら読む」、「精読」の2つがあります。
- (2)スピードをどんどん上げて読む「速読」は、推理小説や冒険小説、旅日記、歴史小説、エッセーなどに向けた本の読み方です。面白くてわくわくし、爽快(そわか)感の連続となります。
- (3)人生とは何か、ものごとの本質とは何か、歴史や社会、経済、文化の真相とは何かなど、「本質的内容」についての本は、スピードをどんどん上げて読む「速読」では何が何だかサッパリわかりません。じっくり一語一語丁寧(ていねい)に

「著者との時空を超えた対話」をするようなつもりで行きつ、もどりつ、考えながら読む「精読」が向いています。

(4)「速読」と「精読」、この2つの読書の仕方をうまく組み合わせ、自分なりの読書の仕方を考えることをおすすめします。

Q3：本は一体何回読むのがよいのでしょうか。

A：(1)簡単な本は1～2回、大切な本は、時間をじっくりかけ、間をかなり空けて、5～6回は読むことをおすすめします。

(2)「論語」や「般若心経」、「聖書」など、毎日、声を出して読むに値する本も、たくさんあります。

(3)優れた本ほど、読むたびに新しい何かをその中に見出すことができます。新しい自分自身をその中に発見することができます。これぞという本は何回でも読む。毎日、何回も読み返しましょう。

Q4：本を読んで身に着くものは何ですか。

A：(1)本を読んで身に着くのは、「深く考える力」、つまり「思慮深さ(しりょぶかさ)」と、「自分自身を振り返る心」、つまり「自省(じせい)心」だと私は考えます。



(2)「著者との時と場所を超えた対話(時空を超えた対話)」を本を読んで行う。それにより、「ああ、そうか。このような考え方、生き方もあるのだ」という「新しい発見」をすることができます。「深くものごとを考える力」、「思慮深さ」や、「振り返る心」、「自省心」を育むことができます。

(3)「本をよく読む人」は、「ものごとを深く考える」、「ことばに重みがある」、「思慮深さ、自省心がある」といわれるのは、このような理由からです。

Q5：本を読むこと、つまり、読書は学校の勉強や受験勉強に関係があるのですか。読書は、学校の成績や入学試験に関係があるのですか。

A：(1)オー、きましたね。答えは、関係がある、大いに関係があります。本を読むこと、「読書は、学校の勉強や入試そのものだ」と私は確信します。信じて疑いません。

(2)なぜか。「本を読めば読むほど、本格的な読書をすればするほど、本を正確に、又、論理的・分析的に読む力がどんどん身に着く」からです。文章や情報を「読むスピード」も当然上がります。

(3)この「本格的な読書」で、難しい内容が含まれる教科書や教材、定期試験や模擬試験、入学試験や資格試験の「大量の文章を、正確に分析的に読み解く力」、つまり、「読解力」を身に着けることができます。「試験時間内に読み切るスピード」も身に着きます。

- (4)この「読解力」こそ、学校での勉強や入学試験に向けての受験勉強で最も求められるものです。特に、試験時間内に問題文・設問・選択肢などすべてを読む力が求められます。
- (5)学校の各教科の出題予想問題を用いた定期試験対策・要約教材や過去問などを用いた入試対策のときに、長文化しつつある試験問題を時間内に正確に、分析的に読み解くことのできる「読解力」が不足しては、いくら勉強してもよい点数、合格点は取れません。そうであるからこそ、開倫塾では「辞書」「新聞」「読書」を活用して、学校の勉強や定期試験・模擬試験、トップ校・難関校を含む第1志望校の入学試験にも耐えられる「読解力」を身に着けようと、創業以来40年間、訴え続けているのです。

Q6 : 「辞書」「新聞」「読書」を活用して、学校の勉強や定期試験・模擬試験、トップ校・難関校の入学試験にも耐えられる「読解力」を身に着けようとはどういうことですか。

A : (1)①例えば、皆さんが病気にかかったときに、近くのクリニックや急性期の患者のための大きな病院を訪ねたとします。

②診察や検査をして、必要な手当て、手術、薬の処方をして頂くだけで病気は完治するかといえば、否(いな)です。

③十分な休養、十分な栄養、十分な睡眠、適度な運動、リハビリ、気分転換などが必要です。お医者さんによる手当、手術、薬の処方以外に、必ず守って行わなければならないことがたくさんあります。一定の期間、口にしてはならない食べ物もあります。成人であれば、アルコールやタバコは絶対禁止の病気もあります。

(2)「辞書」「新聞」「読書」を活用して「読解力」を身に着けることは、病気になったときに、お医者さんによって行われる、手当、手術、お薬の処方以外にしなければならないことと、全く同じです。そのように考えてください。

(3)定期試験対策や入学試験対策だけしていても、「読解力」なしでは、入学試験はもちろん、定期試験や模擬試験でもよい点数は取れません。

(4)言い換えれば、定期試験でよい成績を取り、模擬試験でよい偏差値を確保し、入学試験でトップ校・難関校を含む、入るのが難しい学校に合格したければ、「辞書」「新聞」「読書」を毎日活用して、「読解力」を身に着けることに励むことです。

(5)カバンの中には、常に「辞書」と昨日の「新聞」(高校生は「英字新聞」も)、「お気に入りの本を1冊」入れておき、折に触れて慣れ親しみ、最大活用することです。この3つは「読解力」を身に着けるための「三種の神器(さんしゅのじんぎ)」です。



(6)特に、受験学年を迎える塾生の皆様は、これから1年間、「辞書」「新聞」「読書」を最大活用すれば、驚くほどの「読解力」が短期間に身に着きます。塾生全員がトップ校・難関校を含む第1志望校に合格を果たすことができます。合格後も「辞書」「新聞」「読書」の活用を継続すると、素晴らしい学校生活・社会に出てからも充実した生活が送れます。是非、挑戦を。

保護者の皆様も、是非、この「読解力」の重要性を御理解頂き、「辞書・新聞・読書の活用」に御協力ください。

No.10「勉強の仕方を身に着けよう」

<第1章>はじめに

Q 1 : 勉強の仕方は身に着けたほうがよいのですか。

A : (1) サッカーやバスケットボールをするときに、サッカーやバスケットボールの仕方を身に着けないで行ったらどうなるか。試合に出て勝つことなどできないし、友だちとサッカーやバスケットボールで遊ぶことすらあまりよくできません。



(2) 同じように、勉強をするときにも、勉強の仕方を身に着けずにするとうどうなるか。試験でよい点数を取ることもし、試験に合格することもまずできません。それどころか、学校の授業もさっぱりわからないことすらあります。

(3) では、どうしたらよいか。サッカーやバスケットをするときに、サッカーやバスケットの仕方を身に着けるために様々な取り組み(トレーニング)をするのと同じように、勉強をするときにも勉強の仕方を身に着けるための「勉強」(トレーニング)をすることが求められます。

Q 2 : では、お聞きします。勉強の仕方を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 2020年に創業41周年を迎える開倫塾では、これまでの経験を踏まえて効果の上がる勉強の仕方を開倫塾の「学習の3段階理論」として、塾長が中心となって取りまとめています。

(2) その内容をこれからお話いたしますので、どうかゆっくりと、一語一語行きつ戻りつし、よく「理解」しながらお読みください。何回か読み直して頂ければ、少しずつ納得して頂けると思います。

(3) よく御納得頂けたところから少しずつ実行してください。できそうなところから、少しずつでもOKですから、身に着ければ、必ず、御自身のものとして活用して頂けるようになると思います。

Q 3 : 「学習の3段階理論」は、どのように生まれたものですか。

A : (1) 塾長である私は、大学や大学の研究室に在籍し、学習塾や予備校の講師・家庭教師などをしていました。その期を含め、開倫塾を創業してからも、数多くの塾生や保護者、地域社会の皆様が学習面で一番困っているのは、「効果の上がる勉強の仕方」がわからないことだということに気づきました。どこに行っても、又、どんな人に会っても「勉強の仕方」がよくわからなくて困っているとお聞きしてい



たからです。

(2)御質問を頂く度毎(たびごと)に、質問をなされた方に応じた「効果の上がる勉強の仕方」をお話していました。勉強の仕方についてお困りの方、お悩みの方があまりにも多いので、そうであるならば、私自身が考えた「効果の上がる学習方法」を一つにまとめて、皆様に説明することが、皆様のお役に立つのではないかと考えました。

(3)そのようにして取りまとめたのが、これからお話する「学習の3段階理論」です。30年以上前から皆様に説明させて頂いているものですので、その基本は変わりません。ただ、毎年、毎年書き直していますので、お役に立つ度合いは少しずつ上がっているものとひそかに思っています。これからお話するのは、2020年3月17日(火)の最新版です。

Q4 : それでは、お聞きします。「学習の3段階理論」とはどのような内容ですか。

A : (1)勉強、つまり「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の「3段階」に分け、各々の「段階」にふさわしい「学習の方法」を具体的にお示ししたものです。

(2)「理解」とは、今、学んでいることが「よくわかること」「うんなるほどと、納得すること」「腑(ふ)に落ちること」です。

(3)「定着」とは、一度うんなるほどとよくわかったことを、自分のものとして「身に着けること」です。

(4)「応用」とは、

①テストでよい点数(学校の定期試験などでは100点満点、入試などでは合格点)が取れること

②社会で役に立つこと、活用できることです。

* 「学習の3段階理論」では、「身につける」は、漢字で書く場合には「身に着ける」と、「定着」の「着」に準じて「着」を用いて表記します。予め御了承ください。



＜第2章＞第1段階「理解」とは

Q1 : 第1段階の「理解」で大切なことは何ですか。

A : (1)よく考えると、「うんなるほど」と「よくわかる」のはどのような場合があるかという、いくつかあります。

(2)「予習」をしているとき、「先生やいろいろな人から教わっているとき」、「復習」をしているとき、「試験勉強」をしているときなど様々です。

(3)これらを「〇〇先生はじめ、人から教わるとき」と「自分一人で勉強するとき」の2つに分けて、各々の場面での「理解」の仕方をこれから御説明いたします。どうかゆっくりと、お読みくださいね。

Q 2 : 学校や開倫塾の授業など、教室などでの授業で先生方から教えて頂き、「理解」するときはどうしたらよいでしょうか。〈効果の上がる授業の受け方〉を教えてください。

A : わかりました。まとめてお話しますので、ゆっくりお読みください。

〈「効果の上がる授業の受け方」〉

- (1) ①授業の何分か前に教室に行き、できるだけ先生の近くの座席に着席する。
②授業時間までは、それまでの学習内容について、「教科書」や「ノート」などを1ページ目から読み直して授業に「臨む」。
③トイレはできるだけ授業前や自宅で済ませる。
*十分な手洗い、うがいもする。この時期は、「マスク」も必ず着用する。
- (2) ①欠席・遅刻・早退は、体調の悪いとき以外はなるべくしない。
②授業中は、スマホ・ゲーム・ラインなどを絶対にしない。授業に関係のないことはしない。居眠りもしない。
③おしゃべりや私語は他人の迷惑・授業の妨害になるので絶対にしない(「お口にチャック」です)。
- (3) ①授業中は手を机の上に置き、先生の口元(くちもと)と目を見て一語一語真剣に先生のお話をお聞きする。
②先生の指示により、議論やグループワーク、ペアワークなどに積極的に参加する。
*お話をするときや発言をするときには、相手の目を見て、ゆっくり丁寧に語尾がよく聞こえるようにする。
*相手の意見を聞くときには、相手が最後まで話し終わるのを待つ。長すぎるようなら、「ちょっと失礼ですが、お話してもよいですか」といって、発言の機会を得る。
③大切なことは、必ず「ノート」に「メモ」を取り続ける。
*「ノート」の活用の仕方は、あとでまとめてお話します。



Q 3 : それでは、「自分一人で勉強」し「理解」する場合についてお話してください。

A : (1)自分一人で勉強する場合の第1は「予習」ですので、最初に「予習の仕方」についてお話します。

*「予習の仕方」については、「開倫塾 12 の躰プログラム」の No.1「次学年の予習をして、新学年に臨もう」で詳しく説明しました。せっかくなので、今回も、その内容を少しまとめてお話いたします。

- ①「予習」とは、「これから勉強する内容について、授業の前に予め勉強すること」を意味します。
②ですから、「予習」には、学年が始まる前に行う「予習」、学期が始まる前に行う「予習」、次の週の授業の「予習」、明日の授業の「予習」、今日の授

業の「予習」など、いろいろな「予習」があります。

③要するに、これから行われる授業について、予め習う(学習)しておくことが「予習」です。

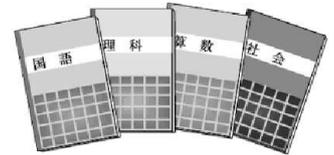
(2)なぜ「予習」をしたほうがよいのでしょうか。

①これは、バスや列車、自動車に乗って、又、歩いて目的地に行くのに、どのように行くのかを予め考えてから行くのと同じです。予めどのような方法で目的地に到着するのかを調べ、考え、頭の中に入れておくと、道に迷うことが少なく、時間通りにスムーズに到着できます。



②皆様は、テレビ東京で放送されていた「太川さんと蛭子さんの路線バスの旅」やテレビ朝日の「徳光さんの路線バスで寄り道の旅」という番組を御存知でしょうか。予め計画が立てられていない路線バスの旅は、目的地に時間通りに到着するのがなかなか難しいと考えます。

③学校や開倫塾の授業を受けるときに、その日の授業内容について学校の教科書や開倫塾のテキストを予め学び終えてから、つまり、「予習」してから出席すると、「授業の内容がよくわかる」こと、「当然」といえます。



(3)①授業に出席して、先生から新しい内容を初めて教えて頂くよりは、自分の力で「予習」をしてよく勉強し終えてから授業に出たほうが、はるかに先生の教えてくださる内容がよくわかります。よく「理解」できます。「うん、なるほど」「これはこういうことか」と「納得」し「腑(ふ)に落ち」ます。

②授業中によくわかり、よく「理解」したければ、できるだけ十分に時間をかけ、その日の授業内容を「予習」したほうがよいのは、このような理由のためです。

Q 4 : 「予習をすると授業の妨げになるから予習はしないように」という考えがありますが、どうお考えですか。

A : (1)①その考えには、それなりの理由があります。

②「予習」をして授業に臨む人の中には、「そんなこと知っている」といって授業中に自慢をしたり、

③「先生の教え方は、予習をした本と違っていておかしい。間違っている」などと、先生に文句をいったりする人がいるからです。

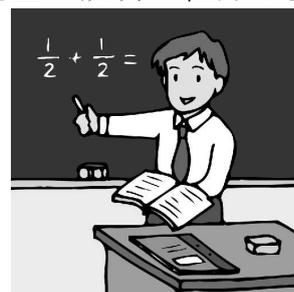
(2)①これは、自慢をしたり、文句をいったりする人が「授業のエチケット」を心得ていないためです。

②「予習」をきちんとすればするほど、授業の内容を授業前によく知っているのは「当たり前」です。

③それを授業中に、皆の前で自慢するのは「エチケット」に反し、場合によっ

ては「授業の妨げ(授業妨害)」になります。厳に慎みましょう。

(3)①又、「予習」のときの参考書などの説明と、授業中の先生の説明の仕方が少し異なるのはよくあることです。一つのものを説明するのにいろいろな説明の仕方があるのは、よくあることだからです。



②例えば、同じ家の形を説明するのに、真正面から見た様子、真上から見た様子、左側面から見た様子、右側面から見た様子、真裏から見た様子、ななめ右から見た様子、ななめ左から見た様子など、すべて異なります。ものごとは、見る方向、見方が異なると、見え方が異なります。

③同様に、同じことを説明するのに、少しでも観点(見方)が違うと、説明の仕方が異なります。「予習」のときに学んだ説明と、授業中の先生の説明が違って、文句をいうことはおかしいといえます。

④但(ただ)し、どうしても納得がいかなければ、授業中に手を挙(あ)げて「こういう考えもあるのではないですか」などと質問することをおすすめします。又は、授業後に、先生のお許しを得て質問するとよいと思います。

⑤自分の「予習」した説明と、先生の説明が違うからといって、「先生の授業は間違いだ」と断定し、授業や先生を批判することは止めましょう。

Q5 : どのように予習をすればよいのですか。

A : (1)①「教科書や教材、問題集、指定された資料のすべてを、授業開始までに一通り読み、書いてある内容をすべて、うんなるほどとよくわかる、納得するまでにすること」、つまり「理解」することが「予習」の基本です。



②そのために一番よい方法は、「予習」すべき文章や内容、情報を、一語一語、一つ一つていねいに読むことです。

③読んでいてよくわからない「語句」があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別の参考書、教科別の辞典、インターネットなどを開いて調べることです。

(2)①調べたことは、ノートやカードに書き写して、どのような内容かを十分に納得、つまり、うんなるほどと「理解」すること。

②うんなるほどとよく納得、「理解」できた「語句」は、よく読めるようにすることと同時に、よく書けるようにすること。そして、その場で覚えてしまうことです。

③書いてあることがよくわからなかったら、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習(音読練習)をすること。「音読練習」が済んだら、よく書けなそうな語句は、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることです。

*「予習」として「音読練習」と「書き取り練習」をし、スラスラとよく読めるようにすること、何も見ないでいえるまでにする「暗誦(あんしょう)」、何も見ないで正確に書けるまでにする「暗記(あんき)」を目指しましょう。

(3)①「計算」や「問題」は、必ずノートに解きましょう。

②問題文もノートに書き写すこと。

③計算や問題を解く過程(途中の式や計算)もすべてノートに書き写しましょう。

*「予習」をするときのノートは左側のみを用い、右側はすべて授業用や復習用に空けておきましょう。



Q 6 : 計算や問題が解けなかったらどうすればよいのですか。

A : (1)解答や途中の計算などを書くスペースを空けておきましょう。

(2)①いくら考えてもわからなければ、参考書や各教科の辞典(例えば、小学算数辞典や中学数学辞典、高校数学辞典など)で似たような問題(これを「類似問題」といいます)を探し、解いてみましょう。

②類似問題を自分で解いてみて、解き方がわからなければどうするか。

③解き方や途中の計算を、「先生の授業を聞くような謙虚(けんきょ)さ、素直な心」で、なぜそのような解き方をし、解答になるのかをよく考えながら、ノートに、ていねいに書き写すことをおすすめします。

(3)①このように「類似問題」を勉強したあとに、授業の「予習」をしていて解くことのできなかつた計算や問題にもう一度挑戦。ノートに解き方・途中の計算も含め書き残しておきましょう。

②それでも解き方や解答がよくわからなければ、「よくわからなかったよ」という、自分自身で考えた「印(しるし)」を、ノートや教科書の「問題番号」の上に付けておき、授業中の先生の説明をよく聞きましょう。

③このように、「予習をしてよくわからなかったところをはっきりさせて、授業に臨む」ことが大切です。

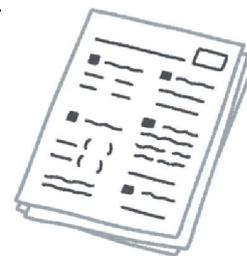
「予習とは、よくわからなかったところをはっきりさせて、授業に臨むために行うもの」

*これを「予習の目的」にしてくださいね。

Q 7 : なるほど。予習をしていてよくわかる、つまり、「理解」できることもたくさんあるということですね。

A : (1)その通りです。ちょっと先走(さきばし)ってしまい、失礼しました。

(2)「予習」をして、うんなるほどとよくわかるところ、つまり「理解」できると



ころは、計算や問題の解き方も含めてなぜそうなるのか、そう考えるのかも「理解」してしまうことです。

(3)又、「予習」をして身に着けられる、「定着」できるものは、予習の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」などを繰り返して、すべて身に着けてしまう、「定着」させてしまうことです。

(4)おわかりでしょうか。ここまで予習をして、授業に臨むことです。どこまで細かく、又、深く予習しても、予習しすぎることはありません。知りたいと思ったら、どんどん先へ、先へと、自分の力で勉強を進めることです。小学生が中学校や高校の勉強をする、中学生が高校の勉強をする、高校生が大学の勉強をするのは、「予習」を本格的にしていけば、誰でもすることです。予習に遠慮は一切ありません。知りたいこと、学びたいことがあればどんどん勉強してください。



Q 8 : それでは、自分で行う勉強として、「復習」による「理解」の仕方を教えてください。

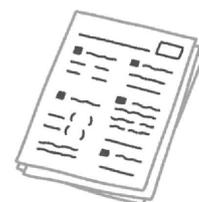
A : (1)復習とは、「授業で習った内容を、授業後にもう一度おさらいをすること、つまり、もう一度学び直すこと」です。

(2)では、何を用いて行ったらよいか。「復習」で用いるものは、3種類あります。

- ①授業で用いた教科書、テキスト
- ②授業中に用いたプリント、資料教材、問題集
- ③授業中に取ったノートやメモ

(3)これら3つのものを用いてどのように「復習」し、うんなるほどと「理解」したらよいか。

- ①教科書やテキスト、プリントや資料教材は、授業で学んだ範囲を、授業を思い出して一語一語かみしめながら、どのような内容なのかがうんなるほどとよくわかるまでよく読むこと。できれば、声を出して読むこと。
- ②読んでいて意味や読み方がわからない語句があったら、「気持ち悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別の参考書、インターネットなどで調べること。調べたことは「意味調べノート」や「単語カード」などに書き写すこと。
- ③書き写したら、その「語句」とその語句の「意味・内容」がスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること。スラスラとよく読めるようになったら、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。1日1回は「意味調べノート」や「単語カード」などを1ページ目、1枚目から声を出して読み返し、すべて正確に覚えて、正確な意味・内容を知っている語句の数を確実に増やすこと。
- ④このようにして、どのような意味・内容かがわかった教科書やテキスト、プリントや資料教材などは、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」、



正確に書けるようになるまで「書き取り練習」を繰り返すことです。

(4)①授業中に一度解いた「計算や問題」はどうしたらよいか。まずは、解答を見ずに、必ず、もう一度解き直すことです。

②解答が間違えていたら、なぜ間違えたかをよく考えて、もう一度解き直すこと。

③なぜそのような解答になるかわからなかったら、よくわかるまで、解答集や教科書、テキスト、参考書などを用いて調べること。

④それでもわからなければ、わかるまで友だちや先生に質問することです。

(5)復習のときには、「ノート整理」をしましょう。

①「ノート整理」とは、授業中に取った「ノート」の中で

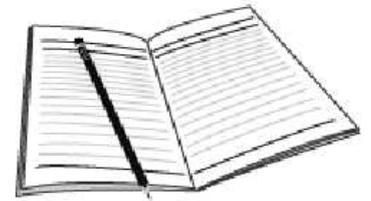
㊦「大切なところに線を引く」

㊧「大切なところは線で囲む」、見やすくしてあとで勉強しやすくすることです。

②「見出し」をつけたり、「必要なことを書き加える」ことも、大いに行ってください。

③「ノート整理」の目的は、「授業中に取ったノート」を、あとで勉強しやすいように、見やすいように工夫することです。

*「ノート」は英語で **notebook** といいます。が、「授業ノート」を工夫して、自分で作った本「My Notebook」にしてください。



(6)このように授業内容を「復習」することにより、「理解」が更(さら)に深まります。

〈ここまでのまとめ：「復習」による「理解」の仕方〉

(1)授業による「理解」

(2)自学自習(自分一人で行う勉強)による「理解」

①「予習」

②「復習」



(7)もちろん

①「理解」の次に行う「定着のための3大練習」をしているうちに、「理解」が深まることもあります。

②さらには、「理解」→「定着」したあと、「応用」としてそれらを用いて問題を解いたり、社会で用いたりしている間に、「理解」がさらに深まることもあります。

③小学校・中学校・高校で学んだ内容を、大学や大学院でもっと専門的に学び、さらには、社会の専門領域で用いるなど社会に出てからも勉強を深めると、「ものごとの本質を理解」することに近づきます。(これを「本質的理解」といいます)

*「同じことでも、学べば学ぶほど奥深い」ことは、世の中には山ほどあります。

小学校・中学校・高校の教科書に出ているような内容を、もっともっと深く学ぶには
(1)参考書があります。参考書には3つの種類があります。

- ①「まとめ」の参考書
- ②教科書の内容を「やさしく説明」してある参考書
- ③教科書の内容を「かなり細かく、詳細に説明」してある参考書

*「教科別の辞典」もあります。

(2)「新書本」や「文庫本」で教科書の各項目がかなり深く、しかし、やさしく説明してある本もたくさんあります。

- ①代表例は「講談社ブルー・ボックス」という新書版シリーズです。
- ②「岩波ジュニア新書」もかなりそろっています。
- ③「講談社学術文庫」や「ちくま学芸文庫」も有用です。

- ④少し大きめの書店、本屋さんや、学校図書館や公共図書館で、勉強に役立つ、また、自分のお気に入りの「文庫本シリーズ」や「新書本シリーズ」を探してみましょう。
とてもためになりますよ！



＜第3章＞第2段階「定着」とは

Q 1 : 「学習の3段階理論」の「第2段階」である「定着」とは何ですか。

A : (1)「定着」とは、うんなるほどとよく「理解」できた内容を、「正確に身に着けること」です。

(2)ですから、「定着」の前提は「理解」です。「読書百遍意自(おの)ずから通ず」「習うより慣れろ」という考えもありますが、できれば、まずは、よく「理解」する努力・取り組みをしてから、次に、正確に身に着ける「定着」のための努力・取り組みをすることをおすすめします。

(3)なぜなら、よく「理解」しないで、覚えるだけ覚えるというよりは、十分に「理解」した上で、正確に用いることができるまで身に着ける・「定着」させるほうがよいと考えるからです。

Q 2 : 「定着」のためにはどのような努力・取り組みをしたらよいのですか。

A : 3つあります。

(1)①まず第1は、「声を出して読む」ことです。

②「声を出して読むこと」を「音読」といいます。

③「学習の3段階理論」で最もおすすめしているのが、「音読練習」による「定着」です。



(2)では、どの程度まで声を出して読む「音読練習」をしたらよいか。

①第1目標は、「スラスラと、よく読めるようになるまで音読練習をすること」です。

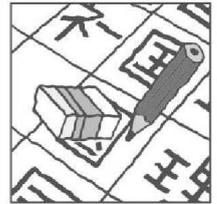
②スラスラと、口をついて出てくるようになるまで、教科書やすべての教材や授業のノートなどを読む練習、「音読練習」を繰り返すことです。

(3)そして、大切なところは、「何も見ないでスラスラといえるまでにすること」です。これを「暗誦」(あんしょう)といいます。大切なところは、「暗誦」できるまで「音読練習」をする。これが「音読練習」の第1目標です。

Q3 : 「定着」のためにしたほうがよいことの2番目は何ですか。

A : (1)①「書き取り練習」です。

②「書き取り練習」とは、「書き順も含めて正確に書けるようになるまで、繰り返し書き取りの練習をすること」です。



(2)①「国語」の教科書で書き取り練習をすべきは、平仮名(ひらがな)と、新しく習うように指示された「漢字」だけではありません。

②「国語」だけでなく、数学も含め、「すべての教科」についても、今までに習ったことはあるが、正確に書くのが難しそうな漢字や、すべての教科の教科書やテキスト、教材、資料集、問題集、授業のノートなどに出てきた語句で、よく覚えていないものはすべて「書き取り練習」の対象です。

③「すべての教科」について、人名や地名はじめ、ものの名前など「固有名詞」もすべて正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をして、「定着」させてください。

(3)①「英語の綴(つづ)り、スペリング」は、正確に書けるまでにしてください。

②英語は、「ブロック体」だけでなく、美しい「筆記体」でも書けるようになるまで書き取り練習をしてください。

③英語の「筆記体」を書く練習をしておく、「筆記体」の文字を読むときに便利です。(「筆記体」を書く練習をすることで、「筆記体」に慣れ親しみ、筆記体で書かれた文字を読むときに役に立ちます。)又、「ブロック体」しか書けないと、自分の名前などサインするときに、サインを簡単に盗まれ、犯罪の被害者になることもあります。せめて、自分の名前だけは美しい「筆記体」で書けるようになるまで、「書き取り練習」をしましょう。(自分の名前が「筆記体」で書けない人は、学校や開倫塾の先生に頼んで、お手本を書いてもらいましょう。ゆっくり何十回か練習すれば、少しずつ書けるようになりますよ。)

(4)①「書き取り練習」の目標は、「一度覚えた語句や文章を何も見ないで書くことができること」です。これを「暗記」といいます。

②「音読練習」をして、何も見ないでスラスラといえるようになるまで「暗誦(あんしょう)」したら、次は「暗誦」した内容を、何も見ないで正確に書け

るまで「暗記」することを目指しましょう。

- ③「書き取り練習」をするときには、「書き順」も正確に覚えましょう。又、誰が読んでも読みやすい文字、教科書で用いられている書体、「楷書(かいしょ)」で書くことを心掛けましょう。



*文字にうまい、へたはあるようですが、まずは、誰が読んでもわかる文字、「楷書」でていねいに書くことを目指しましょう。「ていねいに書く」ことを心掛けていれば、テストで減点されることも少なくなります。

- (5)第2段階の「定着」のために「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返すことで、「理解」した内容を正確に身に着けることができます。

Q 4 : 「定着」のためにしなければならないことの3番目は何ですか。

A : (1)「計算・問題練習」です。

(2)「計算・問題練習」とは、「一度なぜそのような解き方をし、解答になるかを十分に『理解』した計算や問題について、その計算や問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解を導き出せるまで、繰り返し練習すること」です。

(3)これが「計算・問題練習」です。

Q 5 : 例えば、どういうことですか。

A : (1)①例えば、 2×3 という計算問題を見たら、条件反射で 6 という答えが出るまで「九九の練習」をすることです。



②又、例えば、 $(a + 9)(a - 9)$ という問題を見たら、条件反射で $a^2 - 81$ という答えが出るまでにすることです。この前提は、 2×3 や $(a + 9)(a - 9)$ の意味がよくわかっていることです。

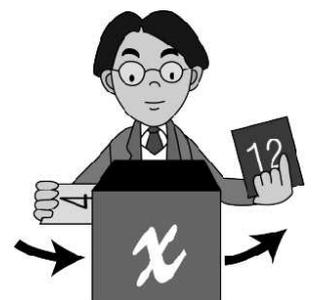
(2)① 2 に 3 をかけるとなぜ 6 になるかがわかっている、「理解」していることです。

②又、 $(a + 9)$ と $(a - 9)$ をかけるとなぜ $a^2 - 81$ になるかがよくわかっている、「理解」していることです。

(3)① 2×3 や $(a + 9)(a - 9)$ の意味がわからないのに、6 という答えや $a^2 - 81$ という答えだけ覚えても何の意味もありません。

②このように、まずは、なぜそのような答えになるのかを十分に「理解」すること。

③その上で、 $2 \times 3 = 6$ 、 $(a + 9)(a - 9) = a^2 - 81$ というように、「計算・問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと正解が出るまでにすることが大切です。



Q 6 : 何を使って、この「計算・問題練習」をすればよいのですか。

A : (1) 今までに自分で解いたすべての計算や問題を用いて、「計算・問題練習」に挑戦しましょう。

(2) この練習をするのに一番よいのは、教科書や問題集、定期試験や模擬試験などで「一度解いて間違えた計算や問題」です。

(3) この練習を行うことで、一気に不得意な計算や問題を減らすことができます。ただし、くれぐれも、なぜそのような答えになるのかを十分に「理解」してくださいね。

* 「テストやその解答は、すべてファイルに保存しておくこと」が大切です。保存していなければ、もう一度やり直すことはできません。



Q 7 : なるほど。「学習の3段階理論」の「第2段階」の「定着」には、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」という3つの「練習」があるのですね。

A : (1) その通りです。「学習の3段階理論」では、この3つの練習を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

(2) ちなみに、慶應義塾塾長の小泉信三先生は、「練習は不可能を可能にする」という「ことば」(名言)を残されました。

(3) 「定着のための3大練習は、不可能を可能にする」と考えます。

① 一度、うんなるほどと十分に「理解」したものは、「予習」のときでも、「復習」のときでも、いつでも OK ですから、「定着のための3大練習」をこまめに行い、すべて正確に身に付けてください。

② あやふやであった「知識」が、すべて正確に身に着きます。

③ 一度学んだが、うろ覚えであったことも、あとになって「定着のための3大練習」をしっかりすることで、知識がよみがえり、知識を正確に身に着け、自分のものとすることができます。



定着のための3大練習は不可能を可能にする

(1) 学校の単元テスト、定期試験、実力試験、業者模試、入学試験、資格試験、入社試験、国家試験などすべての「試験勉強対策」の第一歩は、「教科書」の知識を万遍(まんべん)なく、「スミからスミまで」正確に「理解」し、正確に「定着」させることです。

(2) 一度「理解」したことを「定着のための3大練習」によってすべて身に着けることは、あらゆる試験で「不可能を可能にする」という成果を発揮します。

(3) 是非、チャレンジを。学校の定期試験で100点が取れ、模試の偏差値も急上昇します。

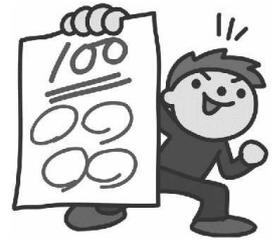
＜第4章＞第3段階「応用」とは

Q 1 : 「学習の3段階理論」の「第3段階」である「応用」とは何ですか。

- A : (1) 一度、うんなるほどと「理解」した内容を、「定着のための3大練習(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)」で正確に身に着け、「定着」させ、それらを用いて「試験でよい点数」を取り、又、「社会に出て役立てる」ことです。
- (2) まとめていうと、「応用」とは「理解、定着したことを用いて、試験でよい点数を取り、社会で役立てる」ことです。
- (3) 「試験でよい点数を取る」ことと、「社会で役立てる」こと、この2つが「学習の3段階理論」の「応用」の内容です。

Q 2 : 「試験でよい点数を取る」の「よい点数」とは何ですか。どんな点数を取れば「よい点数」なのですか。

- A : (1) 「よい点数」とは、
- ① 学校の単元テスト・定期試験では、「100点満点」を取ることです。
 - ② 業者模試では、「トップ校・難関校を含む第1志望校に合格できるだけの十分な偏差値」を取ることです。
 - ③ 入学試験・検定試験・国家試験・就職試験では、「合格点」を取ることです。



Q 3 : 学校の定期試験で「100点満点」という「よい点数」を取るには、どうしたらよいですか。

- A : (1) 学校の定期試験は、毎年実施の時期が決まっていますので、2～3か月前から定期試験対策の勉強をスタートすることです。
- (2) 例えば、この原稿を書いている今日は、3月17日(火)です。3学期制の学校なら1学期の中間試験は5月中旬から下旬、2学期制の学校なら前期の中間試験は6月中とほぼ毎年決まっていますので、今日から1学期に行われる第1回目と第2回目の定期試験対策をスタートすれば、よい点数、100点満点が取れます。
- (3) では、どのように行えばよいか。新学年の学校の教科書や開倫塾のテキストを手にした瞬間に、1学期に行われる定期試験の範囲まですべて「予習」をし終えることです。2学期制の学校は、前期の範囲すべてをできるだけ早く勉強し終えることです。
- (4) そして、学校の授業の直前にも、もう一度「予習」をし、授業が終了したら「復習」をし、第1段階の「理解」を完璧にした上で、第2段階の「定着のための3大練習」を徹底的に行う。「予習」の段階で、「理解」だけでなく、「定着のための3大練習」ができるものはすべて行って授業に臨み、授業後の「復習」でもさらに行って完璧を期す。これを全教科行えば、各学期の定期試験で、全教科100点満点を取ることができます。
- (5) 学校の定期試験は「試験範囲」が明確に示されますので、早め早めの対策として「理解」プラス「定着のための3大練習」を行えば、誰でも確実に100点満点が取れます。



Q 4 : 業者模試で、第 1 志望校に合格できるだけの偏差値を確保するには、どうしたらよいですか。

A : (1)①業者模試も各回ごとに「試験範囲」が明確に示してありますので、できれば模試の 1 ~ 2 か月前までに、その「試験範囲」の内容を自分で主に使っているテキストに沿って「理解」し、「定着のための3大練習」を済ませておくことです。



②その上で、業者模試の昨年同時期の問題(これを「過去問」と呼びます)の何年分かを、実施 1 か月前に、時間通りに解いてみることをおすすめします。

③業者模試の過去問を解き、自分の苦手分野・弱点分野を発見したら、本番の業者模試当日までの 1 か月間、その分野を集中的に勉強することをおすすめします。

(2)実は、業者模試は試験終了後が大切です。

①試験終了後に配付された解答・解説を見て、得点を計算。できた、できなかったで「一喜一憂」する時間はできるだけ避けるか、できるだけ短時間にしましょう。

②業者模試で大切なのは、解答・解説を開倫塾や学校の先生の授業をお聞きするときのような真剣な態度で、一語一語かみしめるように精読、「理解」に努めることです。

③よく「理解」できたら、開倫塾や学校で授業を受けるように、全教科とも今度はじっくり時間をかけて、問題文をテキストにして、もう一度勉強し直してみてください。つまり、意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別参考書、インターネットなどで調べる。調べたことは、ノートや単語カードに書き写し、すべて覚えることです。

④各教科の問題文や設問、選択肢を用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」ですべて身に着ける、「定着させる」ことをおすすめします。

⑤一度解いた模試を、自分の教科書・テキストと同じように最大活用することが、偏差値アップの最短の道です。

⑥模試の解答・解説は、問題文同様、作問者の先生方が、心血を注いで書き上げたものです。開倫塾や学校の先生の授業だと思って、一語一語、真剣に「理解」すること。「理解」したことは、「定着のための 3 大練習」を行ってすべてスミからスミまで身に着ける、「定着」させることです。

⑦間違えた問題を書き抜いた「間違いノート」と、大切なことをまとめた「まとめノート」の作成、繰り返し読み直すこともとても有効です。

Q 5 : 入学試験で「よい点数」、つまり「合格点」を取るためには、どうしたらよいですか。

A : (1)入学試験で過去に出題された問題(過去問)5~10年分を徹底的に活用した勉強をすることです。

(2)遅くとも、入学試験の 2 ~ 3 か月前になったら、「過去問」を用いた勉強をスタートしましょう。

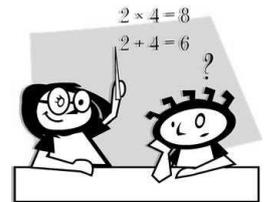
(3)「過去問」の勉強の仕方(手順)は、業者模試と全く同じです。



①「過去問」をノートに解く。

*どうしても時間内に解けなければ、時間を延長してでも解く。

*解き方がよくわからない問題や、正解がわからない問題は、辞書や用語集、参考書、教科別辞典、インターネットなどで「わかるまで徹底的」に調べる。まずは、自分の力ですべて解く努力をする。



②解答・解説を読んで採点をする。

*大切なポイントは「ノート」に書き写す。間違えた問題の正解や解き方もノートに書き写す。（「間違いノート」を作成）

③問題文・設問・選択肢・解答・解説は、学校の教科書を学ぶのと同じように一語一語、ていねいに「理解」に努める。「理解」できたものは「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、「定着」を図ることです。

(4)①間違えた問題を書き抜く「間違いノート」を作成する。

②大切なことをまとめる「まとめノート」の作成も極めて有効です。

③どちらも、「ポイント(要点・大切なこと)」のみ「要領よくまとめ」ましょう。

*大切なのは、その「まとめノート」を繰り返し読み直し、すべて自分のものとして身に着けることです。

<第5章>第3段階 学力とは何か

Q 1 : 「勉強の成果」を決定する上で、大切なこと(要因)は何ですか。

効果の上がる勉強をする上で大切なことは何ですか。



<自覚をもって学ぶこと> _____

A : (1)「本人の自覚」です。

(2)「本人の自覚」とは、勉強する本人が、自分は一体何者なのか、今、自分はどういう立場にいるのか、自分の得意なこと・不得意なことは何か、自分自身でよくわかっていることとは何かについて、よく「理解」していることです。

(3)①この「本人の自覚」がないとどうなるか。

②「勉強する本人」が、なぜ今ここで勉強しなければならないのか、なぜ自分は定期試験や模擬試験、入学試験などを受けなければならない立場にいるのかをわかっていないと、なかなか勉強がはかどらず、成果はあまり期待できません。

③みんなが勉強するから何となく勉強する、みんなが進学するから進学する、保護者や先生に言われたから仕方なく机に向かうというのでは、学校の定期試験や模擬試験、入学試験、3大検定などの試験勉強に力が入らず、よい結果はあまり期待できません。

Q 2 : では、どうしたら自覚をもって学ぶことができるのでしょうか。

A : (1)①ちょっと難しいお話になりますが、今通っている学校というのはどのようなところかを、じっくり考えてみることをおすすめします。小学生は小学生として、中学生は中学生として、高校生は高校生として、今通っている小学校、中学校、高校とはどのようなところかを自分なりに考えてみましょう。例えば、中学校は何をしたらいいのか、中学校で学ぶことはどの

ようなことなのかななどを、学校の案内(パンフレット)や入学式、オリエンテーション、始業式、終業式、朝礼、HR などでの先生方のお話から考えてみましょう。

②今学んでいる各教科の大切さも、少しずつでよいですから考えてみましょう。

③教科の勉強だけでなく、教科外の教育活動、HR、学級会、掃除当番や給食当番をはじめとするいろいろな当番、児童会、生徒会、部活動、体育祭、文化祭、体験教室、鑑賞教室、修学旅行、卒業式、入学試験、始業式、終業式、全体朝礼などの大切さも自分なりに考えてみましょう。



(2)①まずは、今行っていることの「大切さ」(これを難しい言葉で「価値」といいます)を自分で考え、少しずつでも「理解」する。

②次に、そのことの自分にとっての「意味」を自分の力で考えてみる。そして、このことは自分にとってこのような意味があるのだと、自分なりに「意味付け」をする。

③最後に、自分としてはどうしようと考えてみる。やりたいことのすべてはできないので、これはやろう・これはやらないでおこうと自分なりに「ルール」を決めて、自分で決めた「ルール」なのでできるだけ守るように努める。自分で考えた「ルール」に従ってやりたいことを少しずつ抑え、自分自身を「律しながら」行動する、「自律的に行動」することです。

Q 3 : それでは、お聞きします。「学力」とは何だと考えますか。

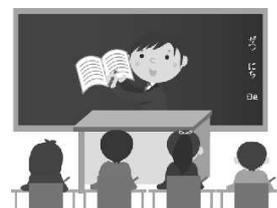
A : (1)①「自分からすすんで学び続ける力」

②「主体的に学び続ける力」

③「自覚をもって学び続ける力」

(2)勉強をする上で最も大切なことは、「学び続ける」ことです。

(3)「学ぶ」とは、人生を何度も生きるために「学び続けること」です(元東京大学総長の佐々木毅先生のことば)。人は、学び続けることで「人生を何度も生きることが」できます。



Q 4 : なるほど。それではお聞きします。自覚をもって学ぶとはどのようなことですか。

A : (1)①「受験生」の塾生の皆様には、1日も早く「自分は受験生である」という「自覚」をおもち頂きたいと強く要望いたします。

*塾生の皆様の中で、2021年の冬に公立中高一貫校、私立中学校、高校、高等専門学校、大学、短期大学、専門学校、専修学校への入学を希望なさる方を、開倫塾では、「受験生」と呼びます。

②「自分は受験生である」という「自覚」があると、できるだけ「長い時間勉強する」ようになります。

③「受験勉強の仕方を工夫」するようになります。

(2)①「入学試験の実施日」は決まっており、入試前日までに「合格できるだけの実力」を身に着けなければなりません。「毎日、できるだけ長く勉強すること」が必要です。

- ②又、短い時間に効果的に勉強できるよう、「受験勉強の仕方を工夫」することも求められます。
- (3)①これに加えて、「読解力」を身に着けないと、「試験時間内に大量の問題文や設問、選択肢を正確に読み込み、正解を導き、書き記(しる)すこと」ができません。
- ②そこで、「辞書」を用いて身に着けていることばの数を増やし、「新聞」を読んで複雑な文章を正確に、論理的・分析的に考えながら読む能力を身に着け、「読書」に励み、思慮深さ、深く考える力を身に着けることが求められるのです。
- ③「辞書と新聞、自分の好きな本を1冊、いつもカバンの中に入れて持ち歩き、どんどん読んでください。」



Q5：どうしたら「受験生としての自覚」をもち、これから1年間、受験勉強をすることができますか。

A：(1)なぜ、公立中高一貫校や私立中学校、高校、高等専門学校、大学などに進学したいのか、「進学の目的」をはっきりさせることです。

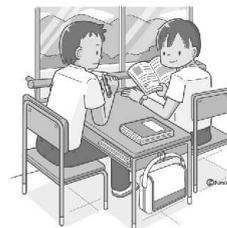
- ①そのための一番のおすすめは、「自分で一番行きたい学校(これを開倫塾では「第1志望校」といいます)を1日も早く訪れ、どのような学校なのか直接見学」することです。
- ②外から建物だけを見てもOKです。又、放課後などなら、「来春、入学を希望するので、ちょっとだけ見学させて頂けませんか」と受付で理由を述べれば、中に入れてくれる学校も多いですよ。
- ③オープンキャンパスまで待たずに、1日も早く第1志望校を実際に訪問することをおすすめします。
- (2)①大学は誰でも自由に入れるところが多いので、キャンパスを散歩したり、大学のカフェやレストランで、お茶やランチをするのもおすすめです。
- ②理由を述べ、手続きをすれば、大学図書館を見学させてくれる大学もかなりあります。
- ③大学の中にある、コンビニや書店・文具店などを訪れると、大学生活の一端に触れることもできます。御家族や友だちと一緒に行くのもよし、一人で行くのもよし、第1志望校への訪問を1日も早く実現してくださいね。
- (3)「第1志望校に入学して何をするか、何を学ぶかを自分の力で考える」ことも、「受験生としての自覚」をもつのに役立ちます。



- ①恥ずかしながら、私を例にお話します。私は中学2年生のころから、将来は弁護士か新聞記者になりたいとひそかに思うようになりました。そこで、例えば、弁護士になるにはどうしたらよいかを調べたところ、司法試験に合格し、司法研修で2年間の研修を受けて修了し、弁護士として登録をしなければならぬことを知りました。では、どのようにして司法試験に合格することができるかといえば、司法試験に合格者を毎年出している大学の法学部法律学科で法律を学ぶことが必要だということがわかりました。そこで、当時、私が住んでいた栃木県足利市の近くで司法試験に合格する

大学に進学できる高校はどこかと探したところ、地元の、栃木県立足利高校普通科がよいのではないかということになり、足利高校を受験することにしました。

- ②これは私の例で、あまり参考にならないかもしれませんが、このように将来の職業のために高校を選択することも考えられます。

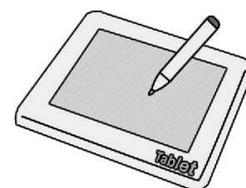


*結果を御報告しますと、希望した足利高校に無事合格し、高校卒業後は、司法試験合格者を出している慶應義塾大学法学部法律学科に進学することができました。ここまではよかったのですが、実力不足のために司法試験には合格を果たすことができず、開倫塾を創業するに至りました。

*ただし、よかったのは、高校の同じクラスから司法試験に合格し、裁判官になった友人が出て、又、私の実の弟も同じ高校、同じ大学で学んで司法試験に合格し、弁護士になれたことです。身近な友人や弟が夢を実現できて本当によかったと思います。

- ③第1志望校に入学して、「こんなことをやりたい、学びたい」、「その学校を卒業してから、～がしたい」、「社会に出て…になりたい」という明確な目標をもつことをおすすめします。たとえ最終的にその夢が叶(かな)わなくても、それまでの勉強や努力はしっかり身に着いていますので、どこかで必ず役に立ちます。私の場合も、法律を勉強したので、社会に出てからもかなり役に立っています。

Q6 : 「学習の3段階理論」などを参考に、自分なりの「効果の上がる学習方法」を身に着けると、どのような人生が歩めますか。



A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができます。

① 「人生の選択肢」が一気に「多様」になります。

② 一度にたくさんはできませんが、自分の潜在能力を発揮し、得意分野を生かしながら生きることができます。

(2) ①試験に合格できなければ、できないこと・就けない仕事は山ほどあります。又、勉強をすればするほど、できることも、たくさんあります。

②例えば、ウェアラブルやスマホ、タブレット、PCも使い方がわからなければ何の役にも立ちませんが、4つの器種の特徴や機能をよく学んで使い方を身に着けることにより、「同期化」したり、様々なことを成し遂げることが可能になります。

③このように、「人生の選択肢が多様」になり、「多様な人生を歩む」ことができます。

(3) ①さらには、「正常に機能する社会の形成」「持続可能な社会の形成」に貢献することができます。

②学べば学ぶほど、SDGs、つまり、人類が2030年までに解決しなければならない17の領域の課題解決に、何らかの形で貢献することができます。

③このように「学習の方法」を身に着け、「自覚」をもって「主体的に学ぶ」ことは、自分の未来だけでなく、地域社会や人類の課題解決に役立ちます。

No.11「長い時間、勉強する習慣を身に着けよう」

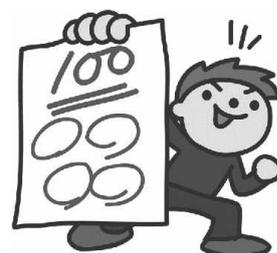
Q 1 : やはり勉強は、長い時間やったほうがよいのですか。

A : (1)気持ちを集中して、又、小間切れの時間をうまく利用して、短時間でも、勉強はできます。

(2)ただし、授業の予習や復習、学んだことをしっかり身に着けるには、長めの時間の勉強が必要です。

(3)また、定期試験や実力試験、模擬試験、入学試験や検定試験など、大切な試験を受けるときには、まとまった、長い時間をかけての勉強が求められます。

(4)このように、定期試験で100点満点、模擬試験で第1志望校の合格に耐えられる偏差値をとったり、トップ校・難関校を含む第1志望校や検定試験、英語検定、漢字検定、数学・算数検定など「3大検定」や、国家試験などを受験し、見事、合格を果たすには、「ハードな長時間自己学習」を行うことが欠かせません。



Q 2 : この「ハードな長時間自己学習」というのは何ですか。

A : (1)「ものごとを成し遂げる」には、「高い志」をもち、その「高い志」、目的を達成するために、具体的な「取り組み」をすることが必要です。

(2)その「取り組み」の1つとして、まずは、自分は「受験生であると自覚」すること、第1志望校に合格するために、「勉強の仕方」を工夫したり、「勉強の時間の確保」をしたりしなければなりません。

(3)①「トップ校・難関校」を第1志望校としたり、「現在の自分の実力では合格することがかなり難しい学校」や、「受験倍率が高い学校」を自分の力で決めた「第1志望校」とした場合には、真剣そのもの、かなり熱心な「長い時間自学自習」をすることが求められます。

②これをまとめて、「ハードな長時間自己学習」と、開倫塾では呼んでいます。

③このことばを、開倫塾の塾生、特に受験生の皆様の中に、今年も「合言葉」にして、トップ校・難関校を含む第1志望校合格を果たして頂きたいと希望します。

— ちょっと一休み：受験における「合言葉」の効用— (Concentration コンセントレーション)

(1)私が高校入試を受けたときのお話です。

受験直前に「Concentration(集中)」という英語を知り、これだと思い、答案用紙が配られる前に、「Concentration, Concentration, Concentration」と呪文のように唱えたら妙に心が落ち着き、スーと解答用紙に向かえました。

(2)又、あるとき「定期試験では、教科書をスミからスミまでよく理解し、スミからスミまですべて定着・身に着けよう」と教室でお話したら、「スミからス

- ミまで」を「合言葉」にして、何教科も 100 点をとった方がたくさん出ました。
- (3) このように、自分で気が付いたり、友達や先生、先輩などから教えて頂いた「何気ない一言」を「合言葉」にし、「ものごとに対処」し、「勉強に励む」と、思わぬ成果が生まれます。
- (4) この〈2020 年 3 月塾長メッセージ〉では、皆様が実行すれば「即」成果が出る、「勉強の仕方」や勉強についての基本的な「考え方」を、少しずつお伝えします。一つでもよいですから、参考にして、自分にとっての「合言葉」にしてくださいね。
- (5) 今回、合言葉にして頂きたいのは「**ハードな長時間自己学習**」です。

Q 3 : では、お聞きします。「ハードな自己学習」として、どのくらいの期間、1 日にどのくらいの時間勉強すればよいのですか。

- A** : (1) 「知的な生活」からスタートして、「勉強中心の生活」に慣れ親しむことです。知的な生活の第 1 は「読書」です。「受験生としての自覚」をもち、トップ校・難関校を含む第 1 志望校に合格を果たしたいのなら、簡単な本は 1～2 回、大切な本は時間をじっくりかけ、間を空けて 5～6 回は読むことをおすすめします。
- (2) 「自分は～という学校に合格を果たしたい」と決めた日、つまり、「第 1 志望校を決定した日」から、受験直前(受験前日)までの期間、眠る時間、生活に必要な不可欠な時間、通学に要する時間以外は、受験勉強に集中するようにおすすめします。
- (3) 特に、入試直前の数か月間は、「寝る時間以外は勉強」を「合言葉」に「ハードな長時間自己学習」に励むことです。新聞を読んだり、読書をする 것도勉強です。勉強時間に入れてください。
- (4) よく考えれば、この 3 月 2 日(月)からの学校休校の期間は、この「ハードな長時間自己学習」をすることのできる「絶好の機会」です。あまり無理をせず、少しずつでも OK ですから、「チャレンジ」しましょう。

Q 4 : 4 月に入り、学校が始まったらどうしたらよいのですか。

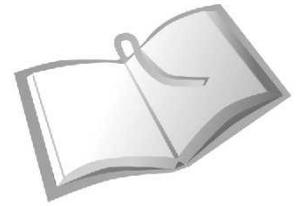
- A** : (1) 学校への「通学時間」中も、創意工夫して行うことです。
- (2) 「授業時間前」には、その教科の教科書や「授業ノート」を徹底的に復習し、「スミからスミまで」を合言葉に、全部覚えてしまいましょう。そして「スミからスミまで」、すべて「定着」してしまいましょう。
- (3) 「授業中は、授業に集中」。「学校の授業内容も入試の試験範囲」ですから、授業内容は授業中にすべて「理解」し、できれば「授業内容は授業中にすべて定着・身に着ける」ことを心掛けましょう。このように、学校の授業中にも、受験勉強はできます。



Q5 : 開倫塾で、この「ハードな長時間自己学習」を行ってもよいのですか。

A : (1)もちろんです。

(2)開倫塾でも先生方の勤務時間中は「自己学習スペース」で「自学自習」「自己学習」ができます。開倫塾にも「辞書・新聞・お気に入りの本を1冊」、必ず持参し、「読解力」を身に付けてください。辞書・新聞・読書を活用して読解力を身に付ける時間も、勉強時間に入れてくださいね。



(3)但(ただ)し、開倫塾で自己学習をする場合には、必ず事前に、校長先生の許可を得てください。

- ①体調が悪い場合や体温が 37.5 ° 以上ある場合、御家庭にインフルエンザや新型コロナウイルスに感染した方がいる場合などには、来塾は、お控えください。
- ②「マスク」を必ず着用、「手洗い」、「うがい」を徹底してください。
- ③感染防止のため同じ部屋に他の塾生がいる場合には、かなり離れて着席して頂きます。
- ④「換気」を頻繁に行います。
- ⑤以上を予め、御理解の上、御協力ください。

〈学校の図書館を大いに活用しよう〉

1.(1)「学校の図書館」に毎日1回以上行き、

(2)「新聞」を毎日30分以上読む。

(3)「読書」を毎日1時間以上行う。

(4)①意味のわからない語句を図書館の辞書を用いて調べ、

②調べたことは「意味調べノート」や「単語カード」に書き写し、

③その語句の意味がうんなるほどとよく「理解」できたら、

④その場で「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、

⑤すべて「覚える」「定着させる」ことです。

2.(1)このように学校に行ったら「学校図書館」に毎日1回以上行き、「辞書」を活用し、「新聞」を読み、「読書」に励むこと。そして、すべての教科の勉強や入試に不可欠な「読解力」を確実に身に付けることです。

(2)「辞書」「新聞」「読書」を活用して、トップ校・難関校を含む第1志望校の入試に耐えられる十分な「読解力」を身に付けることは、「受験勉強」そのものです。「読解力を身に付けることなくして学力向上なし」「読解力を身に付けることなくして受験勉強なし」と断言できます。

(3)「辞書を用い、意味調べ」をし、「新聞を毎日30分以上読む」「読書を1時間以上行う」ことで、入試に必要な「読解力」を身に付けるのに「学校図書館」ほどよいところはありません。



3.(1)学校が休みの日には、地域の「公共図書館」に必ず出かけ、同じことをすることをすすめます。

(2)但し、現在(2020年3月2日(月)以降)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が休校になっているので、学校図書館が利用できません。また、地域の公共図書館も利用制限がなされているので、これらの取り組みは、「自宅」で行わざるをえません。

Q6：開倫塾の「自己学習スペース」で自学自習、「ハードな長時間自己学習」をしてもよいのですか。

A：(1)もちろんOKです。

(2)但し、校長先生が許可した場合に限り。又、校長先生の指示に従う場合に限り。

(3)特に2020年3月2日(月)から、新型コロナウイルス感染防止のため、学校が休校になっていますので、特に細心の注意が必要です。

*Q5のA(私の回答)と、開倫塾の校長先生の指示を必ずお守りください。

〈今は、ハードな長時間自己学習を行う絶好の時期〉

1. ①よく考えれば、学校が休校になり、部活動も休止となっているこの3月2日(月)からの期間は、「ハードな長時間自己学習」を行う「絶好」の期間です。
②学校が再開されるのは、早くても春休みの期間が終わってから、場合によってはゴールデン・ウィーク明けからかと思われます。
③それまでの数十日間、「ハードな長時間自己学習」を行い、「トップ校・難関校を含む第1志望校合格」を果たすための「受験勉強」を行ってください。
2. ①朝起きてから、午前中はめいっぱい自宅で学習。
②昼食後は自宅で学習。
③午後は、気分転換を兼ねて、開倫塾の「自己学習スペース」で、しばらくの間、「自学自習」。わからないことがあれば、開倫塾の先生に質問。
④このように、「勉強中心」の毎日を送り、4月又は5月からの新学年の授業に臨むことをおすすめします。
3. ①小学校4・5・6年生で私立中学校入試・中高一貫校入試を受験する塾生
②中学2・3年生で、トップ校・難関校を含む第1志望校合格を果たそうと決めている塾生
③高校1・2・3年生で、トップ校・難関校を含む大学合格、高度な専門学校合格を本気で考えている塾生
④以上の塾生の皆様は、3月2日(月)から学校の休校が終わるまでの期間を「受験勉強」のスタート期間と考え、健康に十分注意しながら、勉強中心の毎日を送りましょう。
4. 今年の3月から、来年、又は2年後の1月2月3月に行われる入学試験の前日まで、「勉強中心」の毎日を送れば、必ずトップ校・難関校を含む第1志望校合格が果たせます。



Q7：開倫塾の「自己学習スペース」では、1日にどのくらいの時間勉強すればよいのですか。

A：(1)2020年の1月～3月に行われた入学試験でも、多くの塾生の皆様が、入試直前の数か月間、「開倫塾の自己学習スペース」で「ハードな長時間自己学習」を「実行してトップ校・難関校を含む第1志望校合格」を果たしました。

(2)開倫塾の創業者で、開倫塾全校舎の最高責任者である塾長として、私が受験生を含むすべての塾生の皆様に「訴え」続けていることは…

①「夕方、学校から家に帰り、しばらく休んだら開倫塾に来塾。

②開倫塾の自己学習スペースで夕刻から夜10時30分(東京は10時)まで

③開倫塾の校長先生の許可を受け、先生方の指示通り、長時間自己学習に励むこと」です。

(3)つまり、「夕刻から夜10時30分(東京は10時)まで開倫塾の校長先生の許可を得て、先生方の指示通り長時間自己学習する」ことが、開倫塾の「自己学習スペース」での「長時間自己学習」の「勉強時間」です。

①例えば、夕方4時30分から10時30分まで行えば、合計で6時間となります。(東京なら4時30分から10時までなら5時間30分となります)

②夕方5時から10時30分までなら5時間30分となります。(東京なら5時から10時までなら5時間となります)

③学校が早く終わる日は、開倫塾の先生の出勤時間から来塾してもOKです。

(4)1時間に1回は休み時間があります。軽食はそのときにお取りください。

＜「自己学習スペース」を利用するときの「注意」を必ずお守りください＞

①開倫塾に、飲み物や軽食を持参してもOKです。ただし、軽食をとっていいのは、休み時間だけです。

②自分で出したペットボトルや軽食の容器などすべての「ゴミ」は、開倫塾の「ゴミ箱」に捨てずに、「必ず」全部自宅に持ち帰り、自宅で処分してください。

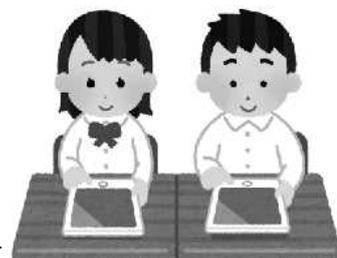
③「自己学習スペース」の机の上においていいのは、教材やノート、筆記用具のみです。

「ペットボトル」「軽食」「スマホ」「携帯」等は、すべてカバンの中に入れておき、必要なときだけ、使用してください。

④「自己学習スペース」で「自学自習中」に「スマホ」「携帯」「ゲーム」を利用することは「絶対禁止」です。

⑤「おしゃべり」や「歩き回ることも禁止です。指定された机・椅子から離れることなく「勉強に集中」してください。

⑥但し、トイレは決してがまんせず、必要なときに利用してください。



Q 8 : 開倫塾の「自己学習スペース」では、何をどのように夕方から夜10時30分(東京は10時)まで勉強すればよいのですか。

A : (1)持参するものは次の3つです。

①「辞書」「昨日の新聞」「お気に入りの本1冊」

②必ず、この3点セットは、毎日持参してください。

③50分間は「新聞」と「お気に入りの本」を読み、「読解力」を身に着けましょう。

(2)①昨日の新聞を必ず持参してください。

②「新聞を毎日30分以上読む」ことが、「読解力」を身に着ける一番の近道です。

③「自己学習スペース」でも、来塾したら、最初の10～20分は、新聞を読むこと。

(3)①「お気に入りの本」を1冊必ず持参してください。

②「読書を1日1時間以上すること」も「読解力」を身に着ける一番の方法です。

③「新聞」を10～20分読み終えたら、「自己学習スペース」で、毎日「お気に入りの本」を40～50分読むことで、読解力を身に着けましょう。

(4)「新聞」を毎日10～20分読むことと、「お気に入りの本」を毎日30～40分読むことが最初の50分間の過ごし方です。



〈開倫塾の「自己学習スペース」で受験勉強として辞書・新聞・読書を活用して読解力を身に着けよう〉

(1)①家庭で勉強する場合も、各教科の勉強を始める前に、新聞を10～20分読み、そのあと、お気に入りの本を30～40分読み、「読解力を身に着ける取り組み」「訓練」「練習」をすることです。

②これはスポーツをする前の、「準備運動」や「柔軟体操」と全く同じです。

③「ランニング」や「キャッチボール」、「柔道なら受け身」の練習と、全く同じです。

(2)①学校の勉強や受験勉強には、「読解力」が欠かせません。いくら、各教科の勉強をしても読解力が足りないと成績は伸びません。キャッチボールもできない人が野球をやるのと同じです。受け身のできない人が柔道をやるのと同じです。「読解力」が身に着いていないと勉強や入試どころではありません。

②この「読解力」を身に着ける最良、最短、最も効果的なのが「辞書」「新聞」「読書」の活用です。

③ですから、「長時間自己学習」の中で1時間(50分)を用いて「新聞を40～50分毎日読む」「お気に入りの本を30～40分読む」ことを、声を大きくして創業以来「おすすめ」しているのです。

- (3)①小6、中3、高3生の塾生の皆様は、受験勉強として、必ず毎日「新聞」と「お気に入りの本」を最低50分間は「本気」で読み、「受験に必要な読解力」を「受験勉強」として身に付けてください。1年間行えば必ず60以上の偏差値がとれます。
- ②小1～小5、中1～中2、高1～高2の「非受験学年」の塾生の皆様こそ、「辞書」「新聞」「読書」を活用して、受験学年になるまでにじっくり、本格的な「読解力」を身に付けてください。
- ③辞書をよく利用し、新聞を毎日30分以上よく読み、読書を毎日1時間以上した人で、学校成績がよくない人や業者模試で偏差値のよくない人を私は知りません。
- (4)学校成績を大幅アップさせ、偏差値60～65以上を確実にとりたかったら「辞書」をよく引き、知っている「ことばの数」を増やし、「新聞」をよく読み、「読書」に励み、「読解力」を身に付けてくださいね。



Q9：なるほど。自己学習スペース利用の最初の50分間は新聞と読書ですね。次の3～4時間はどうしたらよいのですか。

A：(1)①ここからは、普通の受験勉強です。

②毎日の勉強には大雑把でOKですから、計画が大切です。

③今日は、どの教科とどの教科をどのくらいの時間勉強するかを、大雑把でOKですから、まずは考えてノートにメモしてください。

(2)あとは、北関東は夜10時30分(東京は10時)まで、ひたすら机に向かうこと。

(3)家で勉強する場合も全く同じです。

(4)この「ハードな長時間自己学習」を今から受験前日まで行えば、トップ校・難関校を含む第1志望校は必ず合格します。どのように高い倍率の入試も突破できます。

(5)まして、小5、中2、高2から2年間、この「ハードな長時間自己学習」を行えば、入学できない学校はありません。

(6)①受験勉強こそ「自己責任」「自助努力」「自分の未来は自分で切り開く」ことが大切です。

②受験勉強は、自分との闘いです。

③「自立心」(自分自身の力で立つ)と、「自律心」(自分で決めたことは、自分の行動を律しながらやり遂げる)の2つが大事です。



Q10：最後に一言どうぞ。

A：(1)この3月から「本格的な受験勉強」をスタートすれば、どんなトップ校・難関校・高倍率な学校でも、入学は果たせます。

①新型コロナウイルス感染拡大防止のために、安倍首相の要請で、2020年3月2日(月)から学校が休校になり、部活動等の全面休止になっている期間中は、自宅で過ごす時間が1日の大半になっています。学校の休校、部活動等の休止の期間は少なくとも春休みが終わり、新学期が始まるまで続くと思われます。

②考えようによっては、来春の入試に向けて受験勉強を本格的にスタートする絶好のチャンスです。

③「ハードな長時間自己学習」をスタートする「絶好のチャンス」です。

(2)①普通の年なら11月、12月ころから、1月・2月・3月の入学試験前日までに
行う入試直前の本格的な受験勉強を、今年は1年弱前の3月からスタートできる「絶好のチャンス」ともいえます。

②「ピンチをチャンスに」「災い転じて福となす」のことわざにある通り、1日中自宅に居て、1日中自由自在に勉強できるこの3月から、来春の入試に向けての本格的な受験勉強をスタートすることをおすすめします。

③午前中4時間、午後4時間、夜4時間、机に向かい続ければ、合計12時間勉強することができます。この1日12時間の勉強時間は、私立中学校入試、中高一貫校入試、高校入試、大学入試などすべての入試や、司法試験、医師国家試験、公認会計士や税理士等の国家試験直前の平均勉強時間といえます。

(3)この3月2日(月)からの学校休校、部活動休止の期間を、「心配で、不安だ」と嘆き、悲しんで過ごすよりは、「自分の未来は自分で切り開く」の明るい前向きな気持ちで、「受験勉強の本格的なスタートの時期」と考えましょう。

そして、「ハードな長時間自己学習」を、家庭と開倫塾の「自己学習スペース」を組み合わせせて行ってください。



No.12「感謝の心をもって勉強しよう」

Q 1 : なぜ感謝の心をもって勉強しなければならないのですか。

A : (1)①「勉強は自分の力で行うもの」で、感謝の心をもってするようなものではない。そのような考えをおもちの方も多いと思います。



②ただ、よく考えてみれば、土地を購入して学校を建設し、教室や体育館など様々な学校設備を施すには巨額の費用が必要です。また、先生や事務の方を雇用し、教科書や教材を提供するのにもかなりの費用が必要です。

③それらの費用は、納税者の税金や、保護者の納入金、場合によっては寄付金でまかなわれています。

④国や自治体、保護者や寄付をする方々にこれらの費用を支払う能力がなければ、皆様は現在のような学校での教育は受けられないといえます。

(2)①世界には、学校に通えない子どもたちがいます。

②教室の照明や机・いす、教科書やノート、えんぴつなどの筆記用具が不足している学校が世界にはたくさんあります。トイレが不足しているため、学校で学べない子どもたちもいます。

③驚くべきことに、教室に行っても先生がいない学校も数多くあります。

④なぜか。国や自治体、保護者に十分な資金がないこと、学校教育を支える十分な「しくみ」がないことが原因とされます。

⑤学校の授業が、「2部制」といって午前部、午後部と分かれている国もあります。日本のように朝から夕方まで学校で勉強や部活動に励むことができない国もたくさんあります。

(3)①ですから、教育を十分に受けられない国の人々に思いをはせて、感謝の心をもって勉強して頂きたいと思います。同時に、どうしたら、世界中の子どもたちが十分な教育を受けられるかを考え、できることから是非、実行に移して頂きたいと希望します。

②例えば、開倫塾は、開倫ユネスコ協会の活動を全面的にサポートしています。開倫ユネスコ協会は、特に貧しい国に、ノートや教科書、学校や教材などを寄付し、学校教育や民間教育機関を支援する「世界寺子屋運動」に、「書き損じはがき」を集めることで協力しています。

③このユネスコの「世界寺子屋運動」をはじめ、ユニセフや様々な支援があります。無理のない範囲で、協力しながら、世界のありがとうございました！！子どもたちが学校で教育を受けられるようになるためには、どうしたらよいかをお考えください。とてもよい勉強になりますよ。

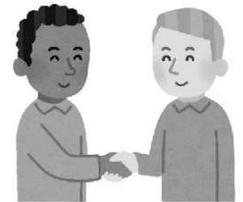


Q 2 : よく考えれば、家族や身の周りにはいる人たちにも随分お世話になっていますね。

- A : (1)よくお気付きになってくださいました。さすが開倫塾の塾生ですね。
(2)自分が生活する上でサポートしてくださっている方々のおかげで、学校に通学でき、開倫塾で塾生として勉強できるのですから、感謝の心をもって学校で学び、又、開倫塾での勉強に励んでくださいね。
(3)時々、感謝の心を「ありがとう」とことばに出して表してくださいね。

Q 3 : ちょっとはずかしいですね。

- A : (1)日本人は、「はにかみ屋さん」が多いので、面と向かって「ありがとう」ということばを出すことが苦手の方が多いようです。
(2)①外国では、何か1つでもしてもらったら、その度ごとに、「相手の目を見て」、「Thank you (ありがとう)」というのが「エチケット」です。
②例えば、レストランで料理を出してもらったら、ウェイターやウエイトレスさんの目をしっかり見て、「Thank you」というのは普通です。
③「Thank you」といえない人は、ごう慢な人・いばっている人・礼儀を知らない人として、あまり相手にしてもらえなくなります。
(3)①我々日本人は、外国の方々から「Thank you !」という感謝のことば、あいさつを学び、日本語で「ありがとう」ということばをもっともっと頻繁に使ったほうがよいと考えます。
②何かしてもらったら、必ず「ありがとう」という練習を試みてください。
③家族の皆さんや、ふだんお世話になっている皆さんにも、心を込めて「ありがとう」と述べてください。



Q 4 : 最後に一言どうぞ。

- A : (1)お世話になった方々に、「感謝の心」をもって「お礼のことば」を述べることは大切な「能力」です。
(2)特に御家族や身近な方で親身になって心配りをしてくださった方々に、「お礼のことば」を述べることは決して忘れてはなりません。
(3)受験勉強の場合には、多くの方々のサポートを頂くことが多いので、受験の前日や合格発表後は「受験勉強を支えて頂きありがとうございました。感謝をいたします」と、お礼のことばを、はずかしがらずに、「ゆっくり」述べることをおすすめします。
(4)万が一、第1志望校に不合格になった場合もまったく同様です。「第1志望校には不合格になりましたが、合格できた学校で頑張ります。よろしく願いいたします」とはっきりお礼と決意表明ができてこそ、立派な人間といえます。辛いかもしれませんが、「お礼のことば」をしっかり述べて「感謝の心」を伝えましょう。
(5)この「塾生 HAND BOOK2020」を最後までよくお読み頂きありがとうございました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

